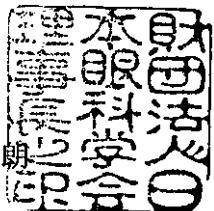


日眼医学保発第30号
平成25年10月24日

文部科学省スポーツ・青少年局
学校健康教育課
大路 正浩 課長殿

公益財団法人日本眼科学会 理事長 石橋達朗



公益社団法人日本眼科医会 会長 高野



要 望 書

学校保健法施行規則の一部改正(平成14年3月29日文部科学省令第12号)により、これまで小学4年の児童全員に実施されていた色覚検査が健康診断の必須項目から削除されてすでに10年が経過した。そのため現在、中高生の多くは色覚検査を受けることなく進学・就職と向き合っており、同様に2年後には検査を受けたことのない多くの大学生が卒業を迎えることになり、色覚に係る問題が急増することが懸念されている。

日本眼科医会では現状を把握する目的で、平成22・23年度における先天色覚異常の受診者に関する実態調査¹⁾を実施したところ、進学・就職に際して色覚に関するさまざまな問題が起り、また学校生活においても先天色覚異常の子どもに対する十分な配慮がされていないことを確認することができた。

一方、同法の施行規則の一部改正に際して発出された貴局長通知(平成14年3月29日13文科ス第489号)には、色覚検査に関しては「定期健康診断の必須項目に加えて色覚の検査を実施する場合には児童生徒及び保護者に事前同意を必要とすること」と検査の実施を容認する記載があり、また進学・就職に関しても「教職員は色覚異常にについて正確な知識を持ち(中略)、学習指導、生徒指導、進路指導等において、色覚異常にについて配慮を行うとともに、適切な指導を行う必要があること」との記載がある。しかし、教育委員会や学校現場では色覚検査が健康診断の必須項目から削除されたことをもって、「色覚検査は実施しなくてよい」または「色覚検査を実施してはいけない」と捉えられた傾向がある。

上記より、今後学校関係者に対して貴局長通知の周知を図るとともに、小学校低学年と中学1年に色覚異常の説明文を添えた色覚検査の申込書(別添)を配布し、希望者に対する検査の実施を働きかけていただくことを強く要望する。なお小学校低学年での検査についてはその理解度を考慮し、小学1年の2学期での実施が望ましい²⁾が、学校現場の事情に合わせて適切に対応されたい。

- 1) 調査報告書「平成22・23年度における先天色覚異常の受診者に関する実態調査」
- 2) 希望調査による検査の実施時期に関して

別添（希望調査に関する色覚検査申込書の例）

平成 年 月 日

保護者各位

_____ 学校長 _____

色覚検査について

先天色覚異常は男子の約5%（20人に1人）、女子の約0.2%（500人に1人）の割合にみられます。色がまったく分からぬのではなく、色によって見分けにくいことがある程度で、日常生活にはほとんど不自由はありません。しかし、状況によっては色を見誤り、周囲から誤解を受けることや、色を使った授業の一部が理解しにくいことがあるため、学校生活における配慮が望まれます。

本人には自覚のない場合が多く、検査を受けるまで保護者もそのことに気づいていない場合が少なくありません。治療方法はありませんが、学校生活を送るうえで、また進学・就職に際して自身の色の感じ方を知っておくために大切な検査です。

検査は希望者を対象に行いますので、以上をご理解いただいたうえで、以下の申込書にご記入のうえ、 年 月 日までに担任にご提出ください。なお結果は後日お知らせします。

色覚検査申込書

平成 年 月 日

学校長 様

色覚検査を希望します

年 組

児童生徒名 _____

保護者名 _____ 印

希望調査による検査の実施時期について

希望調査による色覚検査の実施時期については、日本眼科医会の「平成 22・23 年度における先天色覚異常の受診者に関する実態調査」の結果を鑑み、学校生活と進学・就職の 2 つの観点で捉える必要がある。また同時に検査の希望者がいれば学年に関係なく随時、適切に対応することが求められる。

1. 学校生活での配慮・指導を主な目的とした色覚検査

小学校低学年では、色覚異常の児童が色を見誤り周囲から誤解を受け易く、また色を使った学習内容が多いため授業の一部が理解しにくいことが多い。たとえば今回の調査でも「学校生活で色間違いをして先生に『ふざけてはダメ』と注意された」(8 歳男)、「社会科のテストで地図の色で判断する問題が誤答だった」(9 歳男)といった事例があった。小学校高学年になると「色づかいが違うことをからかわれ、自分は色弱だと思っていた」(10 歳男)といった風に、周囲から指摘される一方で、自らの色の感じ方が周囲の者と違うことに気づき、誤解やトラブルを回避できるようになる。また教職員にとっては、どの児童が色覚異常かを特定できない状態では学校生活において十分に配慮した指導は困難である。

以上より検査は小学 1 年に対して実施するのが望ましいが、「就学後すぐに実施した場合には正しく検査が行えないことがあり、実施時期を小学 1 年の 2 学期に変更することで改善した」との報告を、小学 1 年に実施している 2 つの市の学校医から受けている。この点を考慮したうえで、各学校での希望調査による検査の実施時期については、現場の事情に合わせて実施して差し支えない旨、通知されたい。

2. 進学・就職の進路指導を主な目的とした検査

自らの将来を漠然と思い描きながら、進学・就職に向かい合う中学生に対し、検査の希望調査を行い、希望者に対する検査を実施することにより、その後の進路指導において色覚制限のある職業や、不利になる職業があることなど、情報を伝える良い機会となる。小学校で色覚検査を受けていなかった生徒や、検査を受けていても受診勧奨による眼科受診をしていなかった生徒も少なくない。工業高校に在学中の生徒が「学校で検査をしたら異常だった。もっと早くわかっていたら進路を決めるとき違っていただろう」(17 歳男)といった今回の調査事例もある。なお進学・就職直前の実施では混乱が予想され、中学 1 年が希望調査による検査の実施すべき適切な時期といえる。

3. 色覚に不安を覚える児童生徒及び保護者への対応

局長通知（平成 14 年 3 月 29 日文科ス第 489 号）の留意事項にあるように、色覚に不安を覚える児童生徒及び保護者への対応は、事前に同意を得たうえで、随時、個別に検査・指導を行うことが肝要である。

医会だより

平成22・23年度における 先天色覚異常の受診者に関する実態調査

公益社団法人日本眼科医会 学校保健部
 宮浦 徹・宇津見義一・柏井真理子
 山岸 直矢・高野 繁

I. 調査の概要

1. 調査の目的

平成14年3月の学校保健法施行規則改正により、平成15年度以降は全国のほとんどの学校で色覚検査が実施されなくなった。そのため平成24年現在、中高生は、自らの色覚異常の有無を知ることなく進学・就職と向き合っており、今後進学・就職さらには就業の場において、色覚に係わるトラブルの増加が懸念されている。このような状況のなか、家庭や学校、社会における色覚問題を広く把握し、今後の対応を検討することを目的に、全国の眼科医療機関において先天色覚異常と診断された受診者に係わる実態調査を実施したので報告する。また各眼科医療機関で実施された諸検査の結果も集計したので併せて報告する。

2. 調査方法と調査期間

全国都道府県眼科医会の推薦による657の眼科医療機関（原則診療所とする）に調査報告書（文末の資料2）を事前送付し、先天色覚異常と診断された症例の調査報告書をFAXにて回収した。調査は、年齢、性別、学校区分、学年、受診の動機、異常認識の有無、色覚検査表

の検査結果（石原色覚検査表、東京医科大学式色覚検査表（TMC）、標準色覚検査表（SPP-1）、新色覚異常検査表（新大熊表））、パネルD-15の検査結果、アノマロスコープの検査結果、色覚に係わるエピソードの各項目について行った。調査期間は平成22年4月1日から平成24年3月31日の2年間とした。なお色覚に係わるエピソードに関しては統報で報告する。

3. 報告書の回収と集計

報告書の総回収件数は941件だった。月別の受診者数は表1のとおり。また報告書から得られた集計結果（単純集計、クロス集計）を文末の資料1に示す。発送、回収および集計作業については株式会社山手情報センターに委託した。

II. 調査結果

1. 月別受診者数

調査期間の2年間で回収できた調査報告書の月別受診者数は表1のとおりであった。平成23年6月が100名で最も多く、次いで平成22年6月、平成22年7月がともに72名、平成23年5月が70名と受診者数が多かった（表1、図1）。

表1 調査報告書による月別受診者数

平成22年									平成23年		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
35	56	72	72	65	34	40	24	34	20	22	29
3.7%	6.0%	7.7%	7.7%	6.9%	3.6%	4.3%	2.6%	3.6%	2.1%	2.3%	3.1%
平成23年									平成24年		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
33	70	100	61	46	20	23	15	17	14	19	20
3.5%	7.4%	10.6%	6.5%	4.9%	2.1%	2.4%	1.6%	1.8%	1.5%	2.0%	2.1%
											合計
											941

*回収された調査報告書の中で「正常」と診断された症例は集計対象から除外した。

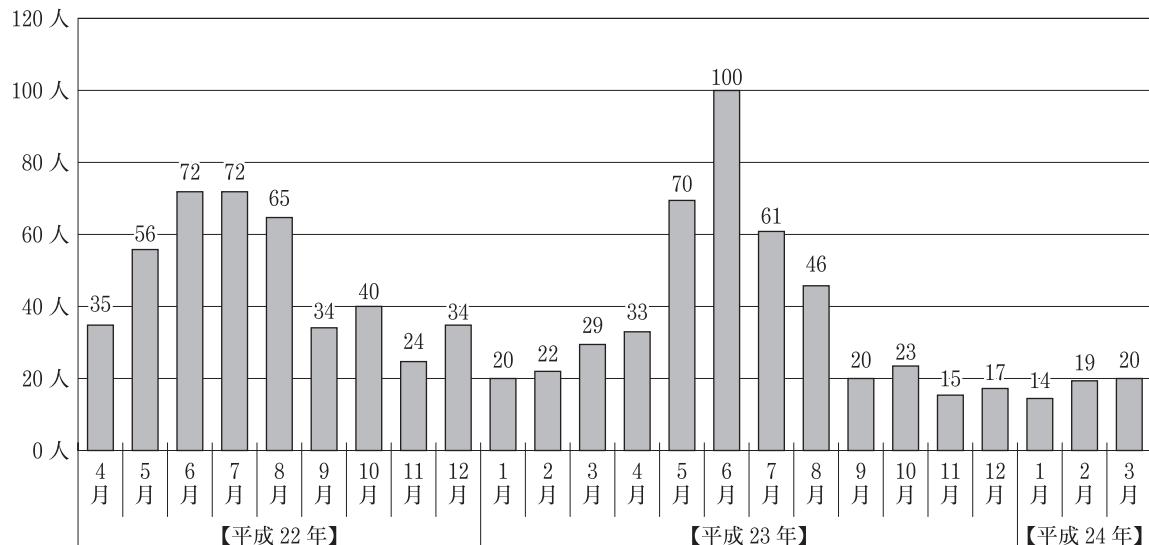


図1 調査報告書による月別受診者数

表2 年齢別受診者数

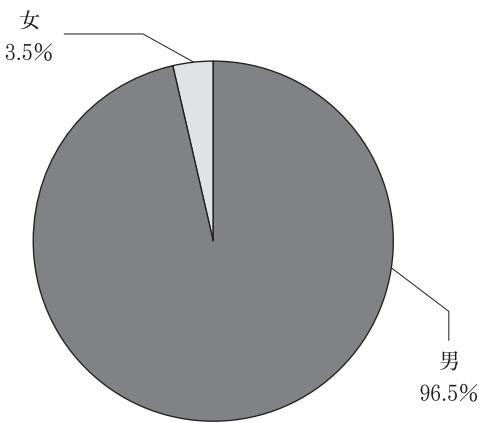
3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳
3	7	19	61	63	40	155	129	32	35	27	24	34
0.3%	0.7%	2.0%	6.5%	6.7%	4.3%	16.5%	13.7%	3.4%	3.7%	2.9%	2.6%	3.6%
16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳
18	49	51	15	13	23	39	18	6	10	5	5	4
1.9%	5.2%	5.4%	1.6%	1.4%	2.4%	4.1%	1.9%	0.6%	1.1%	0.5%	0.5%	0.4%
29歳	30歳	31歳	32歳	33歳	34歳	35歳	36歳	38歳	39歳	40歳	41歳	42歳
5	5	3	4	5	3	3	1	4	1	1	1	1
0.5%	0.5%	0.3%	0.4%	0.5%	0.3%	0.3%	0.1%	0.4%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
43歳	44歳	46歳	47歳	48歳	51歳	54歳	55歳	56歳	58歳	59歳	63歳	66歳
2	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1
0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
69歳	72歳	74歳	76歳	合計	平均	標準偏差	中央値					
1	1	1	1	941	14.2	9.2	10.0					
0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	100.0%								

2. 受診者の年齢

年齢別で最も多かったのは「9歳」の 16.5%，次いで「10歳」の 13.7%であり、この 2つで全体の 3割を占めていた。続いて多かった年齢は「7歳」 6.7%と「6歳」 6.5%さらに「18歳」 5.4%と「17歳」 5.2%であった。また年齢とともに受診者が減少する傾向にあって、「21歳」と「22歳」では一時的に受診者が増加していた。受診者の平均年齢は 14.2 ± 9.2 歳、中央値は 10.0 であった（表2）。

3. 受診者の性別

性別不明の受診者 3名を除く 938 名の内訳は、「男」 905 名の 96.5%，「女」 33 名の 3.5%であった（図2）。



4. 初診時における学校区分

初診時における学校区分（以下、学校区分）をみると、「小学校」が54.0%で最も多く、以下「高校」が13.7%、「社会人」が11.5%、「中学校」が7.5%、「未就学児」が5.4%、「大学・短大・専門学校（以下、大学等）」が5.6%となり、「小学校」が半数以上を占めていた（図3）。

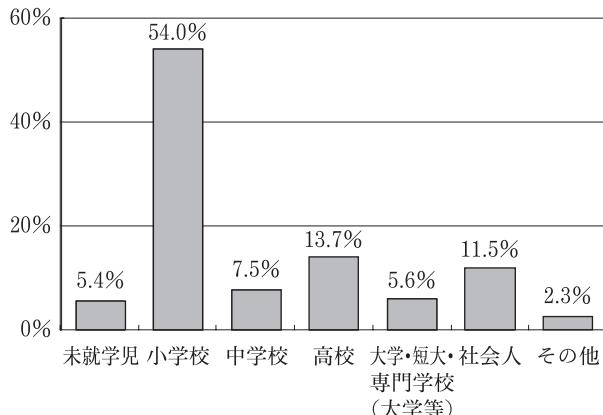


図3 初診時における学校区分

5. 受診の動機

「学校区分」が記載されていた928例中、本問の回答が得られた有効回答919例につきクロス集計した結果を以下に示す。色覚のことで受診した理由（複数回答）を全体でみると、「学校健診」が45.2%で最も多く、次いで「身内に色覚異常がいる」21.4%、「子どもの色覚がおかしい」20.9%、「就職」15.2%、「仕事のこと」6.9%、「進学」4.2%、「結婚」0.2%となった。学校区分別で多い順にみると、「未就学児」では「子どもの色覚がおかしい」が58.0%と最も多く、次いで「身内に色覚異常がいる」の38.0%であった。「小学校」では「学校健

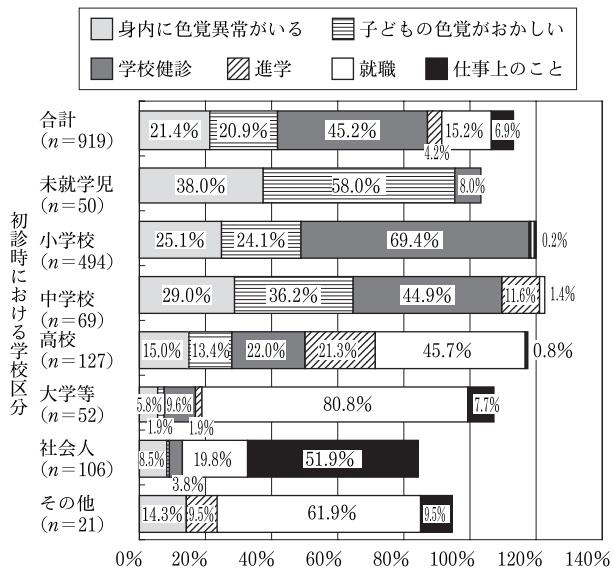


図4 色覚のことで受診した理由（複数回答）と学校区分

診」が69.4%と最も多く、次いで「身内に色覚異常がいる」25.1%、「子どもの色覚がおかしい」24.1%であった。「中学校」では「学校健診」が44.9%、「子どもの色覚がおかしい」36.2%、「身内に色覚異常がいる」29.0%となつた。「高校」では「就職」45.7%、「学校健診」22.0%、「進学」21.3%の順となつた。「大学等」では「就職」の80.8%が最多で、「社会人」では「仕事のこと」が51.9%、「就職」が19.8%となつた（図4）。なお「その他」の理由については考案で述べる。

6. 異常があることの認知

色覚異常があることの認知（本人または保護者）（有効回答数878）を全体でみると、「気づいていた」が49.8%、「気づいていなかった」が50.2%となり、認知度は約5割であった。学校区分別に「気づいていた」割合をみると、「社会人」が82.9%と最も多く、以下「未就学児」が64.0%、「大学等」が61.9%、「中学校」が54.7%，「高校」が54.5%、「小学校」が37.4%となつていて（図5）。

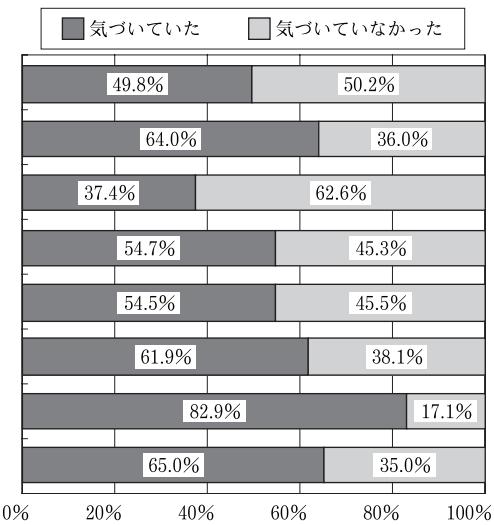


図5 異常があることの認知（本人または保護者）と学校区分

7. 色覚検査表別の実施状況

色覚検査表別の実施状況（複数回答、有効回答数928）を全体でみると、「石原色覚検査表」92.2%、「東京医科大学式色覚検査表（TMC）」55.8%、「標準色覚検査表（SPP-1）」29.6%、「新色覚異常検査表（新大熊表）」8.3%となつた。「石原色覚検査表」は全ての学校区分で9割前後の高い実施率となつた。「東京医科大学式色覚検査表」では、「高校」の63.8%、「標準色覚検査表」では「大学等」の55.8%、「新色覚異常検査表」では「未就学児」の14.0%と「社会人」の12.1%で実施率が高かつた（図6）。

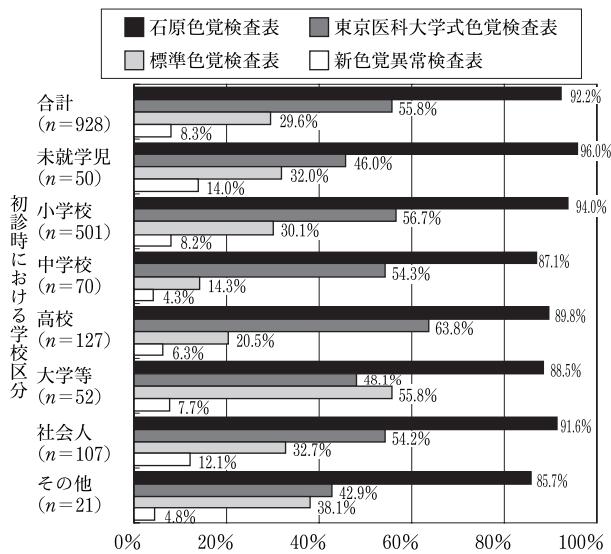


図6 色覚検査表別の実施状況(複数回答)と学校区分

8. 石原色覚検査表の検査結果

石原色覚検査表の検査結果(有効回答数854)を全体でみると、「1型色覚」が8.3%、「2型色覚」が57.1%、「判別不能」が34.2%、「異常なし」が0.4%となった。学校区分別でみると、「未就学児」の「1型色覚」14.6%、「2型色覚」45.8%は、全体での割合と比較して高い割合を示していた。「小学校」「中学校」「高校」では、全体と比較してほぼ同じ割合であった。「大学等」では、「2型色覚」の割合が高い結果となった(図7)。

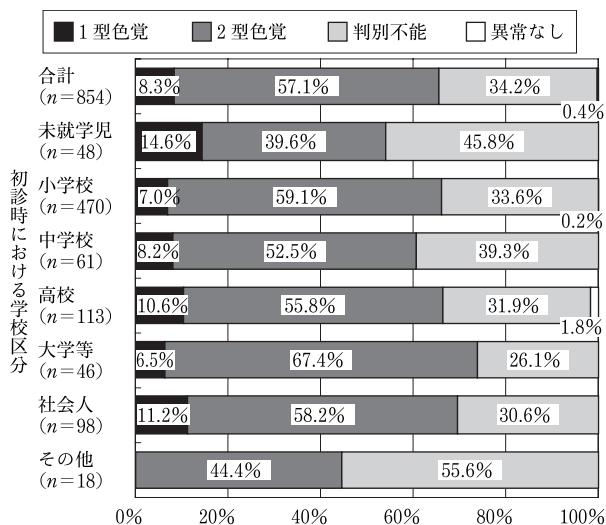


図7 石原色覚検査表の検査結果と学校区分

9. 東京医科大学式色覚検査表(TMC)の検査結果

東京医科大学式色覚検査表の検査結果(有効回答数516)を全体でみると、「1型色覚」が10.5%、「2型色覚」が71.9%、「判別不能」が17.2%、「異常なし」が0.4%となった。学校区分別でみると、「未就学児」では「1型色覚」

「型色覚」21.7%、「判別不能」30.4%であり、全体の割合と比較すると、それぞれ高い割合を示した。「小学校」「中学校」「高校」では、全体と比較してほぼ同じ割合であった(図8)。

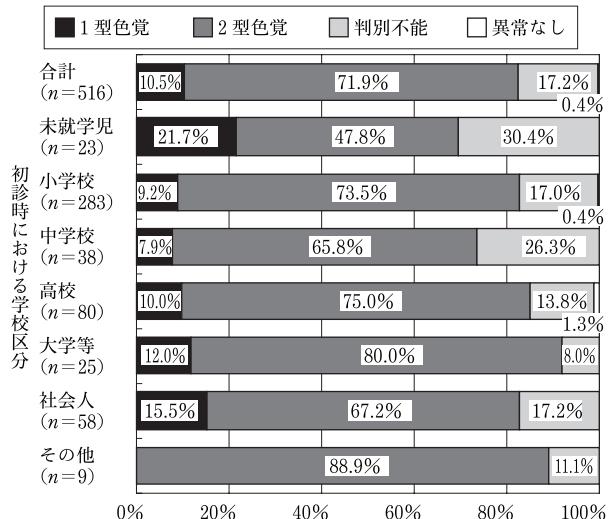


図8 東京医科大学式色覚検査表の検査結果と学校区分

10. 標準色覚検査表(SSP-1)の検査結果

標準色覚検査表の検査結果(有効回答数274)を全体でみると、「1型色覚」が24.1%、「2型色覚」が69.3%、「判別不能」が6.6%、「異常なし」が0.0%となった。学校区分別でみると、「未就学児」では「1型色覚」50.0%、「2型色覚」50.0%であり、「1型色覚」「2型色覚」がそれぞれ半数を占める結果となった。「小学校」「中学校」では「1型色覚」がそれぞれ16.7%、10.0%となった。「高校」では、「1型色覚」が46.2%であり、「未就学児」と同様、高い値となった。「大学等」でも、「1型色覚」が34.5%を占めていた。「社会人」では、全体でみた値

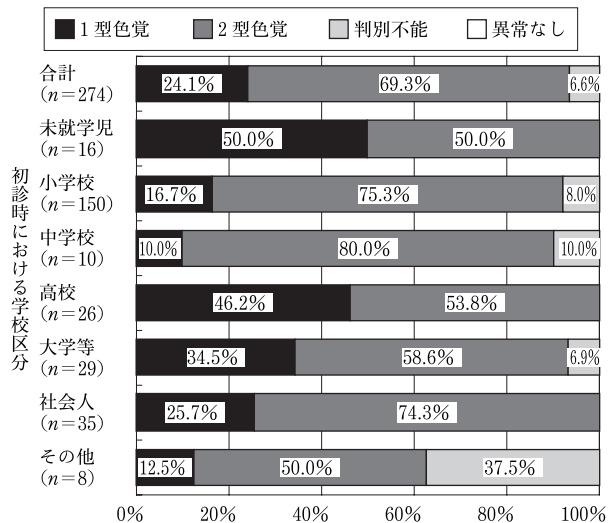


図9 標準色覚検査表の検査結果と学校区分

と大きな変化はみられなかった。なお本検査表は他の色覚検査表と比較して「1型色覚」の割合が高く、また型の「判別不能」の割合が低かった(図9)。

11. 新色覚異常検査表(新大熊表)の検査結果

新色覚異常検査表の検査結果(有効回答数77)を全体でみると、「1型色覚」が7.8%、「2型色覚」が64.9%、「判別不能」が27.3%、「異常なし」が0.0%となった。他の検査と比較して新色覚異常検査表の被検者は一番少ない結果となった。初診時における学校区分別でみると、「未就学児」では「1型色覚」28.6%、「2型色覚」71.4%であり、「1型色覚」が高い割合を示した。「小学校」では、全体と同様の傾向を示していた。対象数は少なかつたが、「中学校」では「2型色覚」が100.0%、「高校」では「2型色覚」と「判別不能」がそれぞれ50.0%、「大学等」では「2型色覚」が75.0%となった。「社会人」では、「2型色覚」が84.6%と高かった(図10)。

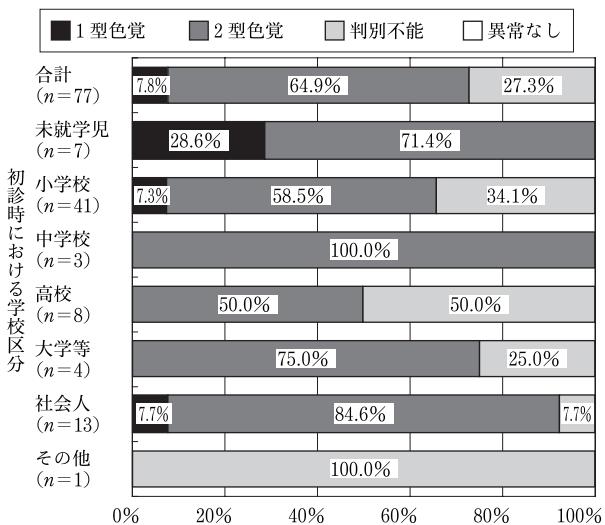


図10 新色覚異常検査表の検査結果と学校区分

12. パネルD-15の検査結果(1) パスとフェイル

パネルD-15の検査結果(有効回答数840)のうち「パス」と「フェイル」の割合を以下に示す。全体では「パス」が30.4%、「フェイル」が69.6%であった。学校区分別でみると、「未就学児」では「フェイル」が95.0%で高い割合を示した。「小学校」「中学校」「高校」および「社会人」では、全体と同様の傾向を示していた。「大学等」では、「パス」の割合が61.7%と5割を超えており、「フェイル」の割合が低くなっていた(図11)。

13. パネルD-15の検査結果(2) protanとdeutan

前項の「フェイル」585名中、本問の回答が得られた583名の色覚異常の型については以下のとおりとなった。

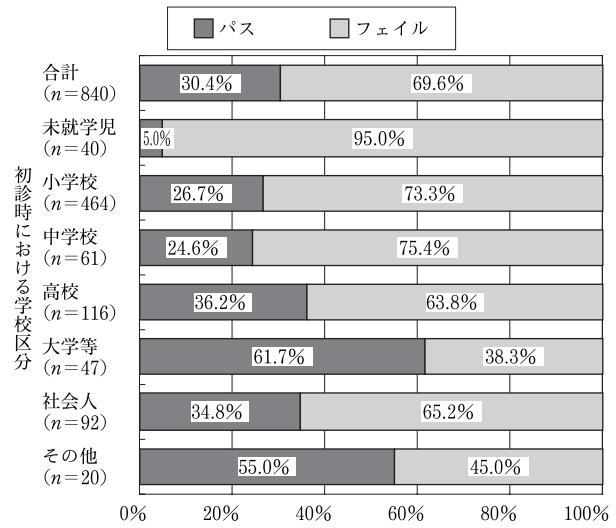


図11 パネルD-15の検査結果(1)と学校区分

全体でみると、「protan」が19.7%、「deutan」が68.1%、「判別不能」が12.2%であった。学校区分別でみると、「未就学児」は他に比べて「protan」が28.9%と高い割合を示したが、「判別不能」も23.7%と最も高かった。その他の区分では大きな変化はみられなかったが、「高校」と「社会人」では、「protan」の割合がそれぞれ25.7%、25.4%であり、他の区分と比較するとやや高くなっていた(図12)。

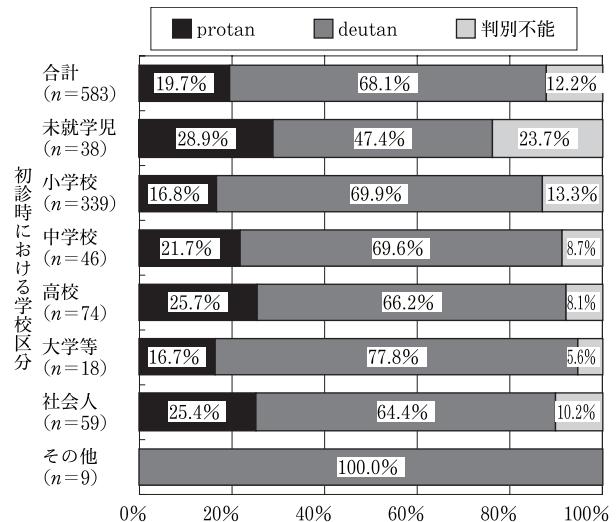


図12 パネルD-15の検査結果(2)と学校区分

14. 異常の認知とパネルD-15の結果(パスとフェイル)の関係

異常の認知(本人または保護者)とパネルD-15の結果、すなわち「パス」と「フェイル」との関係について集計した(有効回答数794)。全体でみると、「パス」のうち「気づいていた」が9.9%、「気づいていなかった」が19.1%であった。一方「フェイル」のうち「気づいて

いた」が39.3%、「気づいていなかった」が31.6%であった。次に学校区分別でみると、「未就学児」では「フェイル」で「気づいていた」が57.5%と高い割合を示し、「フェイル」で「気づいていなかった」も37.5%と高い割合を示していた。「小学校」では、「フェイル」で「気づいていなかった」が39.8%となり、他の区分と比較して最も高い割合を示した。「中学校」、「高校」では全体と同様の傾向を示しており、「大学等」では、「パス」で「気づいていた」が27.0%で高い割合を示し、「社会人」では「フェイル」で「気づいていた」が57.8%と半数以上の割合を示した。

また、「パス」で「気づいていた」は、年代が高くなるにつれ割合が高くなり、逆に「フェイル」で「気づいていなかった」は年代が高くなるにつれ低くなる傾向を示した(図13)。

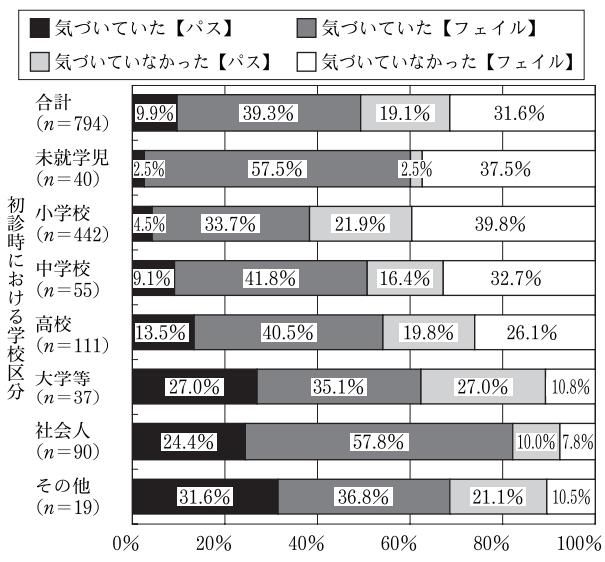


図13 異常の認知とパネルD-15の結果と学校区分

15. アノマロスコープの検査結果(1) 色覚異常の型

「学校区分」が確認できたアノマロスコープの被検者202名のうち、結果が「不明」であった3名を除く199名の色覚異常の型、すなわち1型と2型の割合は以下のとおりであった。全体では、「1型」が27.6%、「2型」が72.4%、「正常」が0.0%となった。学校区分別で「1型」の割合をみると、「未就学児」が54.5%と最も高く、以下「高校」47.4%、「大学等」37.5%、「社会人」36.4%の順となった。一方「2型」では、「小学校」の81.7%が最も高い割合を示した(図14)。

16. アノマロスコープの検査結果(2) 2色覚と異常3色覚

「学校区分」が確認できたアノマロスコープの被検者

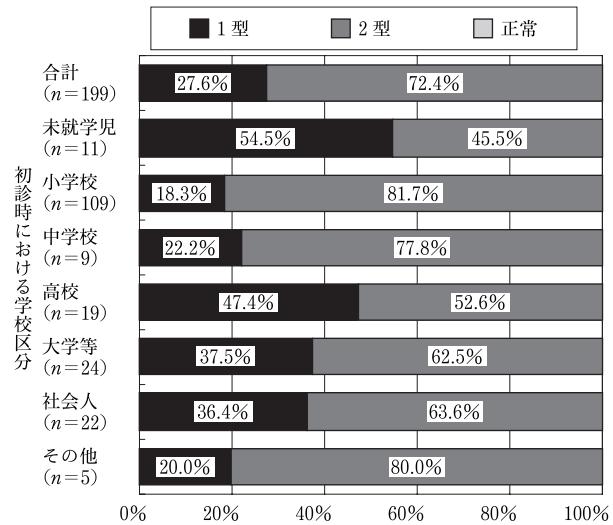


図14 アノマロスコープの検査結果(1)と学校区分

202名のうち、結果が「不明」であった6名を除く196名の2色覚と異常3色覚の割合を以下に示す。全体でみると、「2色覚」が56.6%、「異常3色覚」が43.4%、「正常」は0.0%であった。学校区分別で「2色覚」の割合をみると、「未就学児」が81.8%、「高校」が68.4%、「社会人」が68.2%で高い割合を示した。一方「異常3色覚」では、「中学校」が55.6%「大学等」が50.0%で高い割合を示した(図15)。

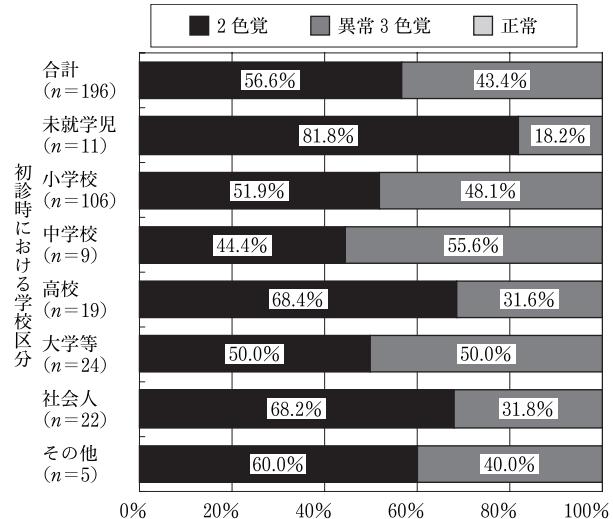


図15 アノマロスコープの検査結果(2)と学校区分

17. アノマロスコープの検査結果(3) 色覚異常の型と2色覚、異常3色覚の関係

「学校区分」が確認できたアノマロスコープの被検者202名のうち、結果が「不明」であった7名を除く195名の色覚異常の型と2色覚、異常3色覚の関係は以下のとおりであった。全体でみると、「1型2色覚」が16.4%、「1型3色覚」が11.3%、「2型2色覚」が40.5%，

「2型3色覚」が31.8%であった。学校区分別でみると、「未就学児」では「1型2色覚」が45.5%と高い割合を示し、「2型3色覚」が9.1%と低い割合を示した。「高校」も同様に「1型2色覚」が36.8%と高い割合を示し、「2型3色覚」が21.1%と低い割合を示した。「大学等」では、「1型3色覚」が25.0%、「社会人」では「2型2色覚」が45.5%と高い割合を示した。「小学校」「中学校」は全体と同じ傾向を示していた(図16)。

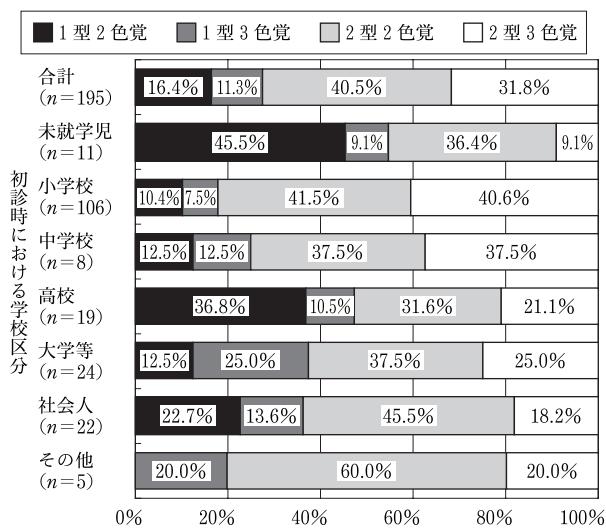


図16 アノマロスコープの検査結果(3)と学校区分

III. 考 案

1. 調査報告書の件数

平成22年4月1日から平成24年3月31日までの2年間、全国47都道府県眼科医会の推薦を受けた657の眼科医療機関において先天色覚異常と診断された症例の調査報告書を回収し、集計を行った。地域医療に深く係わる一般眼科診療所で先天色覚異常と診断された受診者の実態を把握すること、また患者の重複を避けることを目的とし、対象の眼科医療機関を診療所にすることとした。ただ地区の事情で一部病院も含まれていた。

2年間における調査報告書の総回収数941件は、1診療所あたり年間0.7件と少なく予想を下回った。さらにこの2年間の調査期間中に1件の報告例もなかった眼科診療所は657件中429件65.3%に及んだ。学校での色覚検査は平成14年3月の学校保健安全法施行規則の改正に伴い、平成15年度より定期健診の必須検査ではなくなり、以後多くの学校では色覚検査が実施されなくなつた¹⁰。このことが受診者減少の主原因と考えている。

一方調査報告書の月別件数では、平成23年6月が100件で最も多く、続いて平成22年6月、平成22年7月がともに72件、平成23年5月が70件と多かった。このように春から夏にかけて受診者が多かった理由とし

て、学校で実施した色覚検査の結果を受けて来院した受診者が多かったことがあげられる。全国の多くの学校で色覚検査が行われていない状況のなか、一部地域の学校で実施されている希望者に対する任意の色覚検査が強く影響した結果と捉えている。

2. 受診者の年齢と性別

受診者のうち最も多かった年齢は、小学4年と重なる「9歳」16.5%、「10歳」13.7%であり、このふたつで全体の3割を占めていた。この他小学1年と重なる「6歳」6.5%と「7歳」6.7%，また高校3年と重なる「17歳」5.2%と「18歳」5.4%で受診者が多かった。また年代とともに受診者が減少するなか、大学4年と重なる「21歳」2.4%と「22歳」4.1%で一時に受診者が増加する傾向がみられた。学校区分や学年の未回答分を除くため対象は多少異なるが、文末の資料1「学年別集計」においても同様の傾向が見られたため表3として転記しておく。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数
小学校	91 18.3%	50 10.0%	24 4.8%	266 53.4%	40 8.0%	27 5.4%	498 100.0%
中学校	28 40.6%	17 24.6%	24 34.8%	—	—	—	69 100.0%
高校	29 23.0%	25 19.8%	72 57.1%	—	—	—	126 100.0%

表3 学校と学年の区分(学校および学年の不明者を除く)

なお後述するように「小学校」の多くは「学校健診」を理由に受診していた。このことを考え合わせると、現在、学校での希望者に対する色覚検査は主に小学4年で、また一部は小学1年で実施されていることが推測できた。同様に、高校3年、大学4年で見られた一時の増加は、進学・就職に関連した受診によるものと捉えている。

性別では「男」が96.5%、「女」が3.5%であった。先天色覚異常は男子が20人に1人(5%)、女子が500人に1人(0.2%)とされており、このことから、先天色覚異常の男女比は25:1、すなわち男子96.2%、女子3.8%であると云えるが、今回の結果はこれに近似していた。

3. 初診時における学校区分と学年

学校区分では、「小学校」が54.0%で最も多く、総受診者の過半数を占めていた。以下、「高校」13.7%、「社会人」11.5%、「中学校」7.5%、「大学等」5.6%、「未就学児」5.4%の順となった。「小学校」の受診者が多かった理由は、一部の地域では学校健診としての色覚検査が続けて行われていることに加え、対象学年が「中学校」

「高校」と異なり 6 学年であり母数が多かったこと、日常生活や学校生活での色覚に関するトラブルが年少者に多いこと等が考えられた。

このように母数に年齢の偏りが見られたため、本調査の結果内容については多くの事項につき「学校区分」とのクロス集計を行い、それに基づいて話を進めさせていただいた。このため学校区分どうしを比較検討することができたが、その一方で回収した調査報告書に学校区分が未記載であった症例のデータを反映させることができなかった。そこで文末に添付した資料 1 の集計結果にこれらも含めた項目ごとの単純集計の結果も合わせて報告させていただくことにした。少し症例数が増した分、それぞれの結果に多少の変動があるが、大きな違いは見られなかつたことを追記しておく。

4. 受診した動機

色覚のことで受診した理由（複数回答）は、全体では「学校健診」が 45.2%と最も多く、次いで「身内に色覚異常がいる」の 21.4%，「子どもの色覚がおかしい」の 20.9%，「就職」の 15.2%，「仕事のこと」の 6.9%，「進学」の 4.2%，「結婚」の 0.2%と続いた。学校区分別では、未就学児では「子どもの色覚がおかしい」が 58.0%，「身内に色覚異常がいる」が 38.0%であった。小学校、中学校では「学校健診」が最多で、それぞれ 69.4%，44.9%，高校、大学等では「就職」が最多で、それぞれ 45.7%，80.8%であった。社会人では「仕事のこと」が 51.9%，「就職」が 19.8%であった。

高校では「学校健診」による受診は 22.0%と決して多くはなかったが、受診者数は 127 名と「小学校」494 名に次いで多かった。その受診の動機（複数回答）については「就職」45.7%，「進学」21.3%が多くを占めており、先にも述べたが進学・就職に際しての問題が「高校」の受診者数を増やしたものと考えている。

なお本調査に協力していただいた眼科診療所は 657 件、調査期間 2 年間での高校 3 年の受診者は 72 名（表 3）であったことから、全国の眼科診療所の数を 6,131（平成 22 年 4 月の日本眼科医会 A 会員数）とすると、数字上全国ではこの 2 年間で高校 3 年の受診者が 672 名、年間にすれば 336 名だったと推定できる。一方平成 22 年度における全国の高校 3 年生の生徒数は男子 543,489 名、女子 531,727 名（文部科学省統計）であり、男子の 5%，女子の 0.2%から算出すると、同年度の高校 3 年の先天色覚異常は 28,237 名となる。このうちの年間受診者を 336 名と仮定すれば、その受診率は推定で 1.2%に過ぎなかったことになり、自らの色覚異常に気づくことなく進学・就職を迎えた者がまだ相当数いたことが推測できる。

次に「仕事のこと」による受診者は全体では 6.9%と少なかったが、「社会人」の受診者だけでみると 106 人中 55 名 (51.9%) と受診理由のうち最も多かった。また色覚に係わるエピソード（続報に記す）のごとく深刻な問題を抱えての受診が多く、今後職場内の配属に伴う問題、再就職時や転職後のトラブル増加が懸念される。

なお調査報告書の「受診した理由」のうち「その他」が 125 例 (13.4%) あったが、うち 56 例がそれとなく異常を自覚していた者や、以前小学校で指摘された者が「確認のため」に受診していたことが分かった。また 24 例が学校の先生、友人、小児科医など「周囲の勧め」で受診していた。さらに「免許取得のため」9 例、「企業健診」4 例の他、眼球打撲、弱視、目のかすみなど他疾患で受診した患者の精査中に「偶然」見つかった例が 6 例あった。色覚検査は薬物の副作用、緑内障、網膜色素変性症、黄斑部疾患など、後天性色覚異常の有無を把握するためにも勧められており²⁾、偶然に見つかる先天色覚異常の例も稀ではないことが分かった。

5. 異常があることの認知

異常があることの認知を全体でみると、「気づいていた」が 49.8%，「気づいていなかった」が 50.2%と 2 分されていた（有効回答数 878）。一方、学校区分別では、「気づいていた」割合は、「社会人」の 82.9%が最も多く、以下「未就学児」64.0%，「大学等」61.9%，「中学校」54.7%，「高校」54.5%，「小学校」37.4%であった。小学生の認知割合が最も低い結果となった原因是、受診者の多くが学校健診を受診動機としていたためと考えている。「未就学児」で認知割合が高かったのは「子どもの色覚がおかしい」と周囲の者が気づいた上で受診が多かったことを裏付けていた。

6. 色覚検査表（仮性同色表）の実施状況と検査結果

色覚検査表の実施状況を全体でみると、「石原色覚検査表」が 92.2%，「東京医科大学式色覚検査表（以下 TMC）」が 55.8%，「標準色覚検査表（以下 SPP-1）」が 29.6%，「新色覚異常検査表（以下 新大熊表）」が 8.3 % であり、「石原色覚検査表」が診療所で最も広く実施されている検査法であることが推測できた。

一方眼科以外の医療機関でも診断のツールとして使用される機会の多い色覚検査表では、異常の「ある」「なし」の判別能力が求められるが、最終診断で色覚異常とされた対象例のうち、色覚検査表の結果が「異常なし」となった割合を見比べると石原色覚検査表 (0.4%), TMC (0.4%), SPP-1 (0.0%), 新大熊表 (0.0%) といずれも低く、異常の検出機能に優れている結果となった。

次に4つの色覚検査表の検査結果、色覚異常の型を全体で比較すると、1型色覚異常の割合ではSPP-1(24.1%)で最も高く、TMC(10.5%)、石原色覚検査表(8.3%)、新大熊表(7.8%)の順に低くなる結果となった。さらに「判別不能」と「異常なし」の例を除き型判別できた症例だけで色覚異常の型を比較したところ、1型色覚異常の割合はSPP-1(25.8%)、TMC(12.7%)、石原色覚検査表(12.7%)、新大熊表(10.7%)という結果となった。一方「判別不能」の割合は、石原色覚検査表(34.2%)、新大熊表(27.3%)、TMC(17.2%)、SPP-1(6.6%)の順であった。それぞれの対象数は異なるが、後述するアノマロスコープの結果(1)の1型の割合(27.6%)と照らし合わせると、値が近似していること、判別不能の割合が少ないとからSPP-1は型判別機能に優れており、従来の報告を裏付ける結果となつた³⁻⁵⁾。

また学校区分別結果を色覚異常の型で見ると、いずれの色覚検査表においても未就学児において1型が多く、小学校、中学校で1型が減少する傾向にあることがわかった。この傾向はパネルD-15やアノマロスコープの結果からも確認できた。対象者の受診動機が、未就学児では「子どもの色覚がおかしい」「身内に色覚異常がいる」が多く、小学校、中学校では「学校健診」が多かったことが影響したのかも知れない。1型2色覚が2型2色覚よりも子どもの色誤認に気づき易い傾向にあることが、小児へのアンケート調査でも報告されている⁶⁾。

7. パネルD-15の実施状況と検査結果

今回の調査で1例以上の報告があった眼科医療機関は228件、そのうちパネルD-15を所有していたのは212件(93.0%)と高率であった。657医療機関全体での所有率は今回の調査では不明であるが、予想以上の割合で設置されていることが推測できた。今回報告された全症例941例中、本検査が実施されたのは840例(89.3%)で、今回調査した検査のうち石原色覚検査表の854例(90.8%)に次いで多く実施されていた。840例中、パスが255例(30.4%)、フェイルが585例(69.6%)であった。対象は異なるが、アノマロスコープでの2色覚の結果は196例中111例(56.6%)であった。さらにフェイルした例のうち「判別不能」の73例(12.5%)を除いた512例の型はprotan(1型)115例(22.5%)、deutan(2型)397例(77.5%)であった。本検査の型判別についてはフェイルした者だけが対象となる反面、protan(1型)とdeutan(2型)の割合は、SPP-1に次いでアノマロスコープの結果に近かった。パネルD-15は比較的多くの眼科医療機関に備えられていること

が推測できたが、本検査が診断後の色覚指導上重要な程度判定に欠かせない検査であることを思えば、さらに多くの眼科医療機関に設置されることを望む。

なお異常の認知(本人または保護者)については「パス」で「気づいていた」割合が年代とともに増え、「フェイル」で「気づいていなかった」割合が年代とともに減る傾向が示され、日常生活の様々な機会を通じて異常を認知していく過程のようにも思えた。ただ進学・就職を控えた高校生において45.9%が「気づいていなかった」ことは憂慮すべき状況であり、今後の早急な対応が求められる。

8. アノマロスコープの実施状況と検査結果

アノマロスコープが実施されたのは202例であった。型別では判別不明であった3例を除けば1型55例(27.6%)、2型144例(72.4%)であった。2色覚か異常3色覚では判別不明の6例を除けば2色覚111例(56.6%)、異常3色覚85例(43.4%)となった。

なお今回報告の無かった339眼科医療機関の所有状況は不明であるが、2年間の調査期間中に1件以上報告があった眼科医療機関228件のうちアノマロスコープを所有していた眼科医療機関は26件(11.4%)と所有率が高かったことを付記しておく。

IV. まとめ

平成22年4月から平成24年3月までの2年間に、全国657件の一般眼科診療所において先天色覚異常と診断された941例の調査報告書により、以下の結果を得た。

1. 「未就学児」の受診動機では「子どもの色覚がおかしい」(58.0%)、「身内に色覚異常がいる」(38.0%)が多かった。
2. 未就学児ではすべての検査において、1型色覚異常の割合が他の学校区分と比べて高かった。
3. 受診者の多かった「学校の区分」は「小学校」の501名(54.0%)で、その大半は「学校健診」を動機として受診していた。
4. 「高校」の受診者は127名(13.7%)で「小学校」に次いで多く、「進学」「就職」を受診の動機とした者が多かった。
5. 全国的には、高校3年の先天色覚異常者の推定受診率は1.2%と少なく、そのほとんどが自らの色覚異常を知ることなく進学・就職に向かい合っている現状が示唆された。
6. 「大学等」では「就職」(80.8%)が、「社会人」では「仕事のこと」(51.9%)が主な受診動機

となっていた。

7. 調査した4種類の色覚検査表のなかで石原色覚表が最も多く使用されていた。
8. 色覚検査表のうち標準色覚検査表(SPP-1)は判別不能例が少なく、1型と2型の割合もアノマロスコープの値に近似していた。
9. パネルD-15は対象とした検査のなかで、石原色覚表に次いで多く使用されており、程度判定では「パス」(30.4%)「フェイル」(69.6%)で、「フェイル」のうち「判別不能」を除いた型判別ではprotan(22.5%) deutan(77.5%)であった。
10. パネルD-15のパス・フェイルと異常の認知の関係で、「気づいていた／パス」の割合が年代とともに増え、「気づいていなかった／フェイル」の割合が年代とともに減る傾向を示した。
11. アノマロスコープの検査結果において、型判別は「1型」(27.6%),「2型」(72.4%)で、2色覚・

異常3色覚は「2色覚」(56.6%),「異常3色覚」(43.4%)であった。

追記：稿を終えるにあたり、2年の長きにわたり本調査にご協力いただいた多くの先生方に厚くお礼申しあげます。

【文献】

- 1) 宮浦 徹：色覚に関するアンケート調査—47支部の学校保健担当者に聞く。日本的眼科 75: 1521, 2004.
- 2) 田邊詔子：色覚検査のあり方と方法。日本的眼科 68: 121-125, 1997.
- 3) 山出新一：色覚検査表でどこまで正確な診断が出来るか—色覚検査表の使い方。日本的眼科 53: 833-836, 1982.
- 4) 市川一夫, 田邊詔子, 深見嘉一郎：先天色覚異常の検査と指導—実地医家のために—。45-56, 金原出版, 東京, 1996.
- 5) 垣野久美子：色覚異常の検査と診断。日本的眼科 83: 583-586, 2012.
- 6) 中村かおる：学校での色覚検査に関する保護者へのアンケート調査：日本的眼科 75: 443-446, 2004.

資料1. 集計結果

1. 全体の単純集計（未回答による不明分を除外して集計）

※ 以下は未回答例を除き単純集計したものであり、学校区分が不明のものも含んでいるため、後記のクロス集計の結果と一部異なる。

月別受診数

平成22年									平成23年		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
35	56	72	72	65	34	40	24	34	20	22	29
3.7%	6.0%	7.7%	7.7%	6.9%	3.6%	4.3%	2.6%	3.6%	2.1%	2.3%	3.1%
平成23年									平成24年		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
33	70	100	61	46	20	23	15	17	14	19	20
3.5%	7.4%	10.6%	6.5%	4.9%	2.1%	2.4%	1.6%	1.8%	1.5%	2.0%	2.1%
											回答人数 941

初診時における学年の区分

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答人数
小学校	91 18.3%	50 10.0%	24 4.8%	266 53.4%	40 8.0%	27 5.4%	498 100.0%
中学校	28 40.6%	17 24.6%	24 34.8%	—	—	—	69 100.0%
高 校	29 23.0%	25 19.8%	72 57.1%	—	—	—	126 100.0%

受診の動機【複数回答】

身内に色覚異常がいる	子どもの色覚がおかしい	学校健診	進 学	就 職	仕事のこと	結 婚	その他の	回答人数
199 21.4%	192 20.6%	415 44.6%	39 4.2%	151 16.2%	63 6.8%	2 0.2%	125 13.4%	930 —

異常があることの認知

気づいていた	気づいていなかった	回答人数
444 50.0%	444 50.0%	888 100.0%

パネル D-15 の検査結果 (1) パスとフェイル

パス	フェイル	回答人数
260 30.6%	591 69.4%	851 100.0%

色覚検査表の実施状況【複数回答】

石原色覚検査表	東京医科大学式色覚検査表(TMC)	標準色覚検査表(SPP-1)	新色覚異常検査表(新大熊表)	4種類の検査は実施していない	回答人数
868 92.2%	521 55.4%	283 30.1%	77 8.2%	5 0.5%	941 —

石原色覚検査表の検査結果

1型色覚	2型色覚	判別不能	異常なし	回答人数
72 8.3%	495 57.2%	296 34.2%	3 0.3%	866 100.0%

東京医科大学式色覚検査表(TMC)の検査結果

1型色覚	2型色覚	判別不能	異常なし	回答人数
54 10.4%	373 71.9%	90 17.3%	2 0.4%	519 100.0%

標準色覚検査表(SPP-1)の検査結果

1型色覚	2型色覚	判別不能	異常なし	回答人数
70 24.8%	193 68.4%	19 6.7%	0 0.0%	282 100.0%

新色覚異常検査表(新大熊表)の検査結果

1型色覚	2型色覚	判別不能	異常なし	回答人数
6 7.8%	50 64.9%	21 27.3%	0 0.0%	77 100.0%

パネル D-15 の検査結果 (2) protan と deutan

protan	deutan	判別不能	回答人数
118 20.0%	400 67.9%	71 12.1%	589 100.0%

異常の認知とパネル D-15 の結果パスとフェイル
(未実施、不明は除く)

気づいていた 【パス】	気づいていた 【フェイル】	気づいていなかった 【パス】	気づいていなかった 【フェイル】	回答人数
81 10.1%	317 39.4%	155 19.3%	251 31.2%	804 100.0%

アノマロスコープの検査結果 (1) 色覚異常の型

1型	2型	正常	回答人数
59 28.5%	148 71.5%	0 0.0%	207 100.0%

アノマロスコープの検査結果 (2) 2色覚と異常3色覚

2色覚	異常3色覚	正常	回答人数
114 55.9%	90 44.1%	0 0.0%	204 100.0%

アノマロスコープ検査結果 (3) 色覚異常の型と2色覚、3色覚

1型2色覚	1型3色覚	2型2色覚	2型3色覚	回答人数
34 16.7%	24 11.8%	80 39.4%	65 32.0%	203 100.0%

2. 初診時における学校区分別とのクロス集計

※ 以下は未回答による不明分に加え、学校区分の不明分も除き集計したもので、前項の単純集計の結果と一部異なる。

調査報告書の報告件数

		平成 22 年										平成 23 年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
初診時 学校の区分 における	未就学児	1	2	2	5	3	2	0	1	6	0	2	0	
	小学校	18	37	53	37	33	16	15	13	23	8	4	10	
	中学校	3	4	0	3	6	3	7	1	0	3	2	1	
	高校	4	6	3	10	10	4	12	1	2	2	7	10	
	大学・短大・専門学校	0	2	9	6	3	3	1	2	0	1	2	4	
	社会人	7	3	3	6	10	5	5	4	3	6	5	4	
	その他	2	1	0	4	0	1	0	2	0	0	0	0	
合 計		35	55	70	71	65	34	40	24	34	20	22	29	
初診時 学校の区分 における	未就学児	2.0%	4.0%	4.0%	10.0%	6.0%	4.0%	0.0%	2.0%	12.0%	0.0%	4.0%	0.0%	
	小学校	3.6%	7.4%	10.6%	7.4%	6.6%	3.2%	3.0%	2.6%	4.6%	1.6%	0.8%	2.0%	
	中学校	4.3%	5.7%	0.0%	4.3%	8.6%	4.3%	10.0%	1.4%	0.0%	4.3%	2.9%	1.4%	
	高校	3.1%	4.7%	2.4%	7.9%	7.9%	3.1%	9.4%	0.8%	1.6%	1.6%	5.5%	7.9%	
	大学・短大・専門学校	0.0%	3.8%	17.3%	11.5%	5.8%	5.8%	1.9%	3.8%	0.0%	1.9%	3.8%	7.7%	
	社会人	6.5%	2.8%	2.8%	5.6%	9.3%	4.7%	4.7%	3.7%	2.8%	5.6%	4.7%	3.7%	
	その他	9.5%	4.8%	0.0%	19.0%	0.0%	4.8%	0.0%	9.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
合 計		3.8%	5.9%	7.5%	7.7%	7.0%	3.7%	4.3%	2.6%	3.7%	2.2%	2.4%	3.1%	

		平成 23 年										平成 24 年			回答 人数
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
初診時 学校の区分 における	未就学児	1	2	5	4	2	1	1	3	2	1	1	3	50	
	小学校	22	42	66	33	30	7	8	5	6	4	4	7	501	
	中学校	1	11	7	5	3	1	0	1	2	1	3	2	70	
	高校	1	5	2	16	6	9	4	0	3	2	6	2	127	
	大学・短大・専門学校	0	2	4	1	1	2	4	3	0	0	1	1	52	
	社会人	7	6	9	2	3	0	2	2	2	5	4	4	107	
	その他	1	2	1	0	1	0	1	1	2	1	0	1	21	
合 計		33	70	94	61	46	20	20	15	17	14	19	20	928	
初診時 学校の区分 における	未就学児	2.0%	4.0%	10.0%	8.0%	4.0%	2.0%	2.0%	6.0%	4.0%	2.0%	2.0%	6.0%	100.0%	
	小学校	4.4%	8.4%	13.2%	6.6%	6.0%	1.4%	1.6%	1.0%	1.2%	0.8%	0.8%	1.4%	100.0%	
	中学校	1.4%	15.7%	10.0%	7.1%	4.3%	1.4%	0.0%	1.4%	2.9%	1.4%	4.3%	2.9%	100.0%	
	高校	0.8%	3.9%	1.6%	12.6%	4.7%	7.1%	3.1%	0.0%	2.4%	1.6%	4.7%	1.6%	100.0%	
	大学・短大・専門学校	0.0%	3.8%	7.7%	1.9%	1.9%	3.8%	7.7%	5.8%	0.0%	0.0%	1.9%	1.9%	100.0%	
	社会人	6.5%	5.6%	8.4%	1.9%	2.8%	0.0%	1.9%	1.9%	1.9%	4.7%	3.7%	3.7%	100.0%	
	その他	4.8%	9.5%	4.8%	0.0%	4.8%	0.0%	4.8%	4.8%	9.5%	4.8%	0.0%	4.8%	100.0%	
合 計		3.6%	7.5%	10.1%	6.6%	5.0%	2.2%	2.2%	1.6%	1.8%	1.5%	2.0%	2.2%	100.0%	

受診者の性別

		男	女	回答人数
初診時における学校の区分	未就学児	49	1	50
	小学校	480	21	501
	中学校	66	4	70
	高校	125	2	127
	大学・短大・専門学校	50	0	50
	社会人	104	2	106
	その他	18	3	21
	合 計	892	33	925
		98.0%	2.0%	100.0%
初診時における学校の区分	未就学児	95.8%	4.2%	100.0%
	小学校	94.3%	5.7%	100.0%
	中学校	98.4%	1.6%	100.0%
	高校	100.0%	0.0%	100.0%
	大学・短大・専門学校	98.1%	1.9%	100.0%
	社会人	85.7%	14.3%	100.0%
	合 計	96.4%	3.6%	100.0%

初診時における学校の区分

		未就学児	小学校	中学校	高 校	大学・短大・専門学校	社会人	その他の回答	回答人数
初診時における学校の区分	未就学児	50	0	0	0	0	0	0	50
	小学校	0	501	0	0	0	0	0	501
	中学校	0	0	70	0	0	0	0	70
	高校	0	0	0	127	0	0	0	127
	大学・短大・専門学校	0	0	0	0	52	0	0	52
	社会人	0	0	0	0	0	107	0	107
	その他	0	0	0	0	0	0	21	21
	合 計	50	501	70	127	52	107	21	928
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
初診時における学校の区分	未就学児	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	小学校	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	中学校	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	高校	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	大学・短大・専門学校	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	社会人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	合 計	5.4%	54.0%	7.5%	13.7%	5.6%	11.5%	2.3%	100.0%

初診時における学年の区分

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答人数
初診時における学校の区分	未就学児	0	0	0	0	0	0	0
	小学校	91	50	24	266	40	27	498
	中学校	28	17	24	0	0	0	69
	高校	29	25	72	0	0	0	126
	大学・短大・専門学校	4	2	6	21	0	0	33
	社会人	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	合 計	152	94	126	287	40	27	726
		—	—	—	—	—	—	—
初診時における学校の区分	未就学児	18.3%	10.0%	4.8%	53.4%	8.0%	5.4%	100.0%
	小学校	40.6%	24.6%	34.8%	—	—	—	100.0%
	中学校	23.0%	19.8%	57.1%	—	—	—	100.0%
	高校	12.1%	6.1%	18.2%	63.6%	—	—	100.0%
	大学・短大・専門学校	—	—	—	—	—	—	—
	社会人	—	—	—	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—	—	—	—
	合 計	20.9%	12.9%	17.4%	39.5%	5.5%	3.7%	100.0%

受診の動機【複数回答】

		身内に色覚異常がいる	子どもの色覚がおかしい	学校健診	進学	就職	仕事のこと	結婚	その他	回答人数
学校の区分 初診時ににおける	未就学児	19	29	4	0	0	0	0	10	50
	小学校	124	119	343	1	5	1	0	43	494
	中学校	20	25	31	8	1	0	0	8	69
	高校	19	17	28	27	58	1	0	18	127
	大学・短大・専門学校	3	1	5	1	42	4	0	8	52
	社会人	9	1	4	0	21	55	2	35	106
	その他	3	0	0	2	13	2	0	3	21
合 計		197	192	415	39	140	63	2	125	919
学校の区分 初診時ににおける	未就学児	38.0%	58.0%	8.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	—
	小学校	25.1%	24.1%	69.4%	0.2%	1.0%	0.2%	0.0%	8.7%	—
	中学校	29.0%	36.2%	44.9%	11.6%	1.4%	0.0%	0.0%	11.6%	—
	高校	15.0%	13.4%	22.0%	21.3%	45.7%	0.8%	0.0%	14.2%	—
	大学・短大・専門学校	5.8%	1.9%	9.6%	1.9%	80.8%	7.7%	0.0%	15.4%	—
	社会人	8.5%	0.9%	3.8%	0.0%	19.8%	51.9%	1.9%	33.0%	—
	その他	14.3%	0.0%	0.0%	9.5%	61.9%	9.5%	0.0%	14.3%	—
合 計		21.4%	20.9%	45.2%	4.2%	15.2%	6.9%	0.2%	13.6%	—

異常があることの認知

		気づいていた	気づいていなかった	回答人数
学校の区分 初診時ににおける	未就学児	32	18	50
	小学校	178	298	476
	中学校	35	29	64
	高校	66	55	121
	大学・短大・専門学校	26	16	42
	社会人	87	18	105
	その他	13	7	20
合 計		437	441	878
学校の区分 初診時ににおける	未就学児	64.0%	36.0%	100.0%
	小学校	37.4%	62.6%	100.0%
	中学校	54.7%	45.3%	100.0%
	高校	54.5%	45.5%	100.0%
	大学・短大・専門学校	61.9%	38.1%	100.0%
	社会人	82.9%	17.1%	100.0%
	その他	65.0%	35.0%	100.0%
合 計		49.8%	50.2%	100.0%

色覚検査表別の実施状況【複数回答】

		石原色覚検査表	東京医科大学式色覚検査表(TMC)	標準色覚検査表(SPP-1)	新色覚異常検査表(新大熊表)	4種類の検査は実施していない	回答人数
学校の区分 初診時ににおける	未就学児	48	23	16	7	0	50
	小学校	471	284	151	41	3	501
	中学校	61	38	10	3	0	70
	高校	114	81	26	8	0	127
	大学・短大・専門学校	46	25	29	4	0	52
	社会人	98	58	35	13	1	107
	その他	18	9	8	1	1	21
合 計		856	518	275	77	5	928
学校の区分 初診時ににおける	未就学児	96.0%	46.0%	32.0%	14.0%	0.0%	—
	小学校	94.0%	56.7%	30.1%	8.2%	0.6%	—
	中学校	87.1%	54.3%	14.3%	4.3%	0.0%	—
	高校	89.8%	63.8%	20.5%	6.3%	0.0%	—
	大学・短大・専門学校	88.5%	48.1%	55.8%	7.7%	0.0%	—
	社会人	91.6%	54.2%	32.7%	12.1%	0.9%	—
	その他	85.7%	42.9%	38.1%	4.8%	4.8%	—
合 計		92.2%	55.8%	29.6%	8.3%	0.5%	—

石原色覚検査表の検査結果

		1型色覚	2型色覚	判別不能	異常なし	回答人数
初診時 学校の区分における	未就学児	7	19	22	0	48
	小学校	33	278	158	1	470
	中学校	5	32	24	0	61
	高校	12	63	36	2	113
	大学・短大・専門学校	3	31	12	0	46
	社会人	11	57	30	0	98
	その他	0	8	10	0	18
	合計	71	488	292	3	854
初診時 学校の区分における	未就学児	14.6%	39.6%	45.8%	0.0%	100.0%
	小学校	7.0%	59.1%	33.6%	0.2%	100.0%
	中学校	8.2%	52.5%	39.3%	0.0%	100.0%
	高校	10.6%	55.8%	31.9%	1.8%	100.0%
	大学・短大・専門学校	6.5%	67.4%	26.1%	0.0%	100.0%
	社会人	11.2%	58.2%	30.6%	0.0%	100.0%
	その他	0.0%	44.4%	55.6%	0.0%	100.0%
	合計	8.3%	57.1%	34.2%	0.4%	100.0%

東京医科大学式色覚検査表 (TMC) の検査結果

		1型色覚	2型色覚	判別不能	異常なし	回答人数
初診時 学校の区分における	未就学児	5	11	7	0	23
	小学校	26	208	48	1	283
	中学校	3	25	10	0	38
	高校	8	60	11	1	80
	大学・短大・専門学校	3	20	2	0	25
	社会人	9	39	10	0	58
	その他	0	8	1	0	9
	合計	54	371	89	2	516
初診時 学校の区分における	未就学児	21.7%	47.8%	30.4%	0.0%	100.0%
	小学校	9.2%	73.5%	17.0%	0.4%	100.0%
	中学校	7.9%	65.8%	26.3%	0.0%	100.0%
	高校	10.0%	75.0%	13.8%	1.3%	100.0%
	大学・短大・専門学校	12.0%	80.0%	8.0%	0.0%	100.0%
	社会人	15.5%	67.2%	17.2%	0.0%	100.0%
	その他	0.0%	88.9%	11.1%	0.0%	100.0%
	合計	10.5%	71.9%	17.2%	0.4%	100.0%

標準色覚検査表 (SPP-1) の検査結果

		1型色覚	2型色覚	判別不能	異常なし	回答人数
初診時 学校の区分における	未就学児	8	8	0	0	16
	小学校	25	113	12	0	150
	中学校	1	8	1	0	10
	高校	12	14	0	0	26
	大学・短大・専門学校	10	17	2	0	29
	社会人	9	26	0	0	35
	その他	1	4	3	0	8
	合計	66	190	18	0	274
初診時 学校の区分における	未就学児	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	小学校	16.7%	75.3%	8.0%	0.0%	100.0%
	中学校	10.0%	80.0%	10.0%	0.0%	100.0%
	高校	46.2%	53.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	大学・短大・専門学校	34.5%	58.6%	6.9%	0.0%	100.0%
	社会人	25.7%	74.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	その他	12.5%	50.0%	37.5%	0.0%	100.0%
	合計	24.1%	69.3%	6.6%	0.0%	100.0%

新色覚異常検査表(新大熊表)の検査結果

		1型色覚	2型色覚	判別不能	異常なし	回答人数
初診時における 学校の区分	未就学児	2	5	0	0	7
	小学校	3	24	14	0	41
	中学校	0	3	0	0	3
	高校	0	4	4	0	8
	大学・短大・専門学校	0	3	1	0	4
	社会人	1	11	1	0	13
	その他	0	0	1	0	1
合 計		6	50	21	0	77
初診時における 学校の区分	未就学児	28.6%	71.4%	0.0%	0.0%	100.0%
	小学校	7.3%	58.5%	34.1%	0.0%	100.0%
	中学校	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	高校	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
	大学・短大・専門学校	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%
	社会人	7.7%	84.6%	7.7%	0.0%	100.0%
	その他	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
合 計		7.8%	64.9%	27.3%	0.0%	100.0%

パネル D-15 の検査結果(1) パスとフェイル

		パス	フェイル	回答人数
初診時における 学校の区分	未就学児	2	38	40
	小学校	124	340	464
	中学校	15	46	61
	高校	42	74	116
	大学・短大・専門学校	29	18	47
	社会人	32	60	92
	その他	11	9	20
合 計		255	585	840
初診時における 学校の区分	未就学児	5.0%	95.0%	100.0%
	小学校	26.7%	73.3%	100.0%
	中学校	24.6%	75.4%	100.0%
	高校	36.2%	63.8%	100.0%
	大学・短大・専門学校	61.7%	38.3%	100.0%
	社会人	34.8%	65.2%	100.0%
	その他	55.0%	45.0%	100.0%
合 計		30.4%	69.6%	100.0%

パネル D-15 の検査結果(2) protan と deutan

		protan	deutan	判別不能	回答人数
初診時における 学校の区分	未就学児	11	18	9	38
	小学校	57	237	45	339
	中学校	10	32	4	46
	高校	19	49	6	74
	大学・短大・専門学校	3	14	1	18
	社会人	15	38	6	59
	その他	0	9	0	9
合 計		115	397	71	583
初診時における 学校の区分	未就学児	28.9%	47.4%	23.7%	100.0%
	小学校	16.8%	69.9%	13.3%	100.0%
	中学校	21.7%	69.6%	8.7%	100.0%
	高校	25.7%	66.2%	8.1%	100.0%
	大学・短大・専門学校	16.7%	77.8%	5.6%	100.0%
	社会人	25.4%	64.4%	10.2%	100.0%
	その他	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
合 計		19.7%	68.1%	12.2%	100.0%

異常の認知とパネル D-15 の結果 (バスとフェイル)

		気づいていた 【バス】	気づいていた 【フェイル】	気づいていなかった 【バス】	気づいていなかった 【フェイル】	回答人数
初診時における 学校の区分	未就学児	1	23	1	15	40
	小学校	20	149	97	176	442
	中学校	5	23	9	18	55
	高校	15	45	22	29	111
	大学・短大・専門学校	10	13	10	4	37
	社会人	22	52	9	7	90
	その他	6	7	4	2	19
合 計		79	312	152	251	794
初診時における 学校の区分	未就学児	2.5%	57.5%	2.5%	37.5%	100.0%
	小学校	4.5%	33.7%	21.9%	39.8%	100.0%
	中学校	9.1%	41.8%	16.4%	32.7%	100.0%
	高校	13.5%	40.5%	19.8%	26.1%	100.0%
	大学・短大・専門学校	27.0%	35.1%	27.0%	10.8%	100.0%
	社会人	24.4%	57.8%	10.0%	7.8%	100.0%
	その他	31.6%	36.8%	21.1%	10.5%	100.0%
合 計		9.9%	39.3%	19.1%	31.6%	100.0%

アノマロスコープの検査結果 (1) 色覚異常の型

		1型	2型	正常	回答人数
初診時における 学校の区分	未就学児	6	5	0	11
	小学校	20	89	0	109
	中学校	2	7	0	9
	高校	9	10	0	19
	大学・短大・専門学校	9	15	0	24
	社会人	8	14	0	22
	その他	1	4	0	5
合 計		55	144	0	199
初診時における 学校の区分	未就学児	54.5%	45.5%	0.0%	100.0%
	小学校	18.3%	81.7%	0.0%	100.0%
	中学校	22.2%	77.8%	0.0%	100.0%
	高校	47.4%	52.6%	0.0%	100.0%
	大学・短大・専門学校	37.5%	62.5%	0.0%	100.0%
	社会人	36.4%	63.6%	0.0%	100.0%
	その他	20.0%	80.0%	0.0%	100.0%
合 計		27.6%	72.4%	0.0%	100.0%

アノマロスコープの検査結果 (2) 2色覚と異常3色覚

		2色覚	異常3色覚	正常	回答人数
初診時における 学校の区分	未就学児	9	2	0	11
	小学校	55	51	0	106
	中学校	4	5	0	9
	高校	13	6	0	19
	大学・短大・専門学校	12	12	0	24
	社会人	15	7	0	22
	その他	3	2	0	5
合 計		111	85	0	196
初診時における 学校の区分	未就学児	81.8%	18.2%	0.0%	100.0%
	小学校	51.9%	48.1%	0.0%	100.0%
	中学校	44.4%	55.6%	0.0%	100.0%
	高校	68.4%	31.6%	0.0%	100.0%
	大学・短大・専門学校	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
	社会人	68.2%	31.8%	0.0%	100.0%
	その他	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%
合 計		56.6%	43.4%	0.0%	100.0%

アノマロスコープ検査結果 (3) 色覚異常の型と2色覚、異常3色覚の関係

		1型 2色覚	1型 3色覚	2型 2色覚	2型 3色覚	回答人数
初診時における 学校の区分	未就学児	5	1	4	1	11
	小学校	11	8	44	43	106
	中学校	1	1	3	3	8
	高校	7	2	6	4	19
	大学・短大・専門学校	3	6	9	6	24
	社会人	5	3	10	4	22
	その他	0	1	3	1	5
合 計		32	22	79	62	195
初診時における 学校の区分	未就学児	45.5%	9.1%	36.4%	9.1%	100.0%
	小学校	10.4%	7.5%	41.5%	40.6%	100.0%
	中学校	12.5%	12.5%	37.5%	37.5%	100.0%
	高校	36.8%	10.5%	31.6%	21.1%	100.0%
	大学・短大・専門学校	12.5%	25.0%	37.5%	25.0%	100.0%
	社会人	22.7%	13.6%	45.5%	18.2%	100.0%
	その他	0.0%	20.0%	60.0%	20.0%	100.0%
合 計		16.4%	11.3%	40.5%	31.8%	100.0%

資料 2. 調査報告書

◆◇◆ 送信先 FAX 番号: 0120-887-597 (フリーダイヤル) ◆◇◆
【先天色覚異常の報告書】(改訂版)

【報告者】

支部名 _____ 医療機関名 _____ 報告者名 _____

【症 例】

受診日	平成 年 月 日	年 齡	歳	性 別	1. 男	2. 女
-----	----------	-----	---	-----	------	------

1. 初診時における学校・学年の区分 (再診時でも初診時の学校・学年区分をご記入下さい)

- | | | |
|---------------|------------------|--------------|
| 1. 未就学児 | 2. 小学校 () 年 | 3. 中学校 () 年 |
| 4. 高校 () 年 | 5. 短大・専門学校 () 年 | 6. 大 学 () 年 |
| 7. 社会人 (職業:) | 8. その他 (具体的に:) | |

2. 受診の理由

(1) 色覚のことで受診された理由をすべて選んでください (〇はいくつでも)

- | | | |
|---------------|-----------------|----------|
| 1. 身内に色覚異常がいる | 2. 子どもの色覚がおかしい | 3. 学校健診 |
| 4. 進学 | 5. 就職 | 6. 仕事のこと |
| 7. 結婚 | 8. その他 (具体的に:) | |

(2) 本人または保護者は異常があることに気づいていましたか

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. 気づいていた | 2. 気づいていなかった |
|-----------|--------------|

3. 色覚検査と結果

(1) 色覚検査表: 実施した色覚検査表名に「✓」して結果(異常の型)を選択してください

✓	色 覚 検 査 表 名	結 果 (異常の型*)			
	石原色覚検査表	i. 1型色覚	ii. 2型色覚	iii. 判別不能	iv. 異常なし
	東京医科大学式色覚検査表 (TMC)	i. 1型色覚	ii. 2型色覚	iii. 判別不能	iv. 異常なし
	標準色覚検査表 (SPP-1)	i. 1型色覚	ii. 2型色覚	iii. 判別不能	iv. 異常なし
	新色覚異常検査表 (新大熊表)	i. 1型色覚	ii. 2型色覚	iii. 判別不能	iv. 異常なし

※ 1型色覚 (旧用語の第1色覚異常、赤色盲・色弱)、2型色覚 (旧用語の第2色覚異常、緑色盲・色弱)

(2) パネル D-15 の結果

- | | |
|------------|--|
| 1. 所有していない | 2. 所有しているが実施していない |
| 3. パス | 4. フェイル ⇒ (i. protan ii. deutan iii. 判別不能) |

(3) アノマロスコープの検査結果

- | | |
|--|--|
| 1. 所有していない | 2. 所有しているが実施していない |
| 3. 実施した ⇒ アノマロスコープの ① (i. 1型 ii. 2型 iii. 異常なし) | ② (i. 2色覚 ii. 異常3色覚 iii. 異常なし) |

4. 本人や保護者から得られた、色覚に係わるトラブルやエピソードをご記入下さい。■

--

～ご協力ありがとうございました～

◆◇◆ 送信先 FAX 番号: 0120-887-597 (フリーダイヤル) ◆◇◆

医会だより

平成22・23年度における 先天色覚異常の受診者に関する実態調査（続報）

公益社団法人日本眼科医会 学校保健部
 宮浦 徹・宇津見義一・柏井真理子
 山岸 直矢・高野 繁

I. 調査の概要

1. 調査の目的

平成14年3月の学校保健法施行規則改正により、平成15年度以降は全国のほとんどの学校で色覚検査が実施されなくなり、平成24年現在、中高生の多くは、自らの色覚異常の有無を知ることなく進学・就職に臨んでいる。そのため進学・就職さらには就業の場において、色覚に係わるトラブルの増加が懸念されている。そこで日本眼科医会では今後の対応を検討することを目的に、全国の眼科医療機関において先天色覚異常と診断された受診者に係わる実態調査を実施し、その結果を本誌に報告した¹⁾。本稿はその続報として、前回未発表であった受診者の「色覚に係わるエピソード」について報告する。

2. 調査方法と調査期間

全国都道府県眼科医会の推薦による657の眼科医療機関（原則診療所とする）に調査報告書（文末の資料1）を事前送付し、先天色覚異常と診断された症例の調査報告書をFAXにて回収した。調査は、年齢、性別、学校区分、学年、受診の動機、異常認識の有無、色覚検査表の検査結果（石原色覚検査表、東京医科大学式色覚検査表（TMC）、標準色覚検査表（SPP-1）、新色覚異常検査表（新大熊表））、パネルD-15の検査結果、アノマロスコープの検査結果、色覚に係わるエピソードの各項目について行った。調査期間は平成22年4月1日から平成24年3月31日の2年間とした。本稿ではこのうち「色覚に係わるエピソード」に関して報告する。

3. 報告書の回収と集計

報告書の総回収件数は941件で、得られた受診者の「色覚に係わるエピソード」は660例であった。なお発送、回収および集計作業については株式会社山手情報処

理センターに委託した。

II. 調査結果と考案

色覚に係わるエピソード

今回の調査では協力医療機関の先生方に先天色覚異常の患者本人や保護者から色覚に係わるトラブルやエピソードの聞き取り調査をお願いした。患者本人や保護者にとっては話しづらい内容もあり、聴取が困難なケースもあったと思われるが、回収した941件から660の事例報告を得ることができた。そのうち「なし」、「特なし」、「問題なし」などの内容の162例（24.5%）を除いた498例について検討した。このように今回対象者となった先天色覚異常の方の中には、日常まったくトラブルやエピソードがなかったとした例が少なからずあったことを明記しておく。なおトラブル、エピソードのあった498例の全事例をその内容により、日常生活の214例、学校生活の81例、進学・就職の92例、仕事の36例、その他75例に分け、文末に資料2として添付しておく。色覚に係わるトラブルが日常どのような時に、どのような形で起こるのか、その結果周りからどのように誤解されるのかを知ることは、先天色覚異常を理解するうえで有力な手掛かりになる。そこで本稿では若干の考察を加えながらその一部を紹介する。

1) 未就学児に關したもの

未就学児では遊びのなかでの色間違いを保護者が気づいた事例が多かった。またお絵かきやぬり絵がしばしば行われる園では、気づいた先生が、保護者に直接伝えるケースが複数例報告されていた。ぬり絵については色覚検査としての「ぬり絵テスト」²⁾もあり、注意すれば園の生活の中でも、より多くを見出しが可能と思われた。

4歳男 携帯ゲーム機では色の判別が求められるゲームが苦手。

- 4歳男 ビーズ遊びで小さくて透明な色の区別ができなかった（オレンジ、黄緑、黄色）。プチトマトを「赤い？」と聞いていた。
- 5歳男 ぬり絵の時、黄緑をオレンジに、灰色をピンクに塗る。
- 5歳男 ゲーム機の充電の色（橙と黄緑）が区別できない。
- 5歳男 お絵かきで、顔を緑色にしていた。
- 5歳男 幼稚園の先生から赤と緑が茶色に見えていたと指摘された。
- 5歳男 姉に色間違いを指摘され、よく喧嘩になる。
- 5歳男 お絵かき、図工の時に（園で）いろいろ事件があるとのこと。

2) 学校生活に関するもの

(1) 小学校

小学校では学校生活でのトラブルが多く、とくに教科では図工で絵を描く作業でのものが目立った。低学年ではまだ自身の異常に気づいていないことが多いためか、感じたままの色で描いたところ、理解のない先生から訳も分からず叱られたという報告が複数例あった。高学年になるにつれ、友人との色使いの違いに気づきはじめ、何か変だと感じ始めるようである。また文部科学省や日本学校保健会から配布された冊子や資料など³⁻⁵⁾により、教職員ならば当然認識しておかねばならない「黒板と色チョーク」に関する報告も未だ多く、色チョークの使用方法をはじめとした、学校における色覚バリアフリーが十分に行われてないことが推測できた。

- 7歳男 「秋の葉の色」という課題で緑色を塗った。
- 8歳男 色間違いをして、先生に「ふざけていてはダメ」と注意されたことがある。
- 8歳男 絵を描く時、色を確かめようとする。理科のプリントで草や花の色をうまく塗れない。地図の色を問われて分からなかった。
- 9歳男 黒板の赤いチョークの字を読みとぼした。
- 10歳男 教科書のカラーページで「何が描かれているか分からぬ」と言った。
- 10歳男 色づかいが級友と違うことをからかわれ、本人は自分が色弱だと思っていた。

(2) 中学校

美術の授業や部活動での色使いで、友人のそれと異なることを自覚した例が多かった。

- 13歳男 緑の黒板の色を黒という。
- 13歳男 中学校で美術部に入ってから、茶と緑の区別が分からることを自覚した。
- 14歳男 以前から変だと感じていたが、美術の授業で先生に指摘され、教科の点も良くなかった。

- 14歳女 美術部で緑と赤の色を間違い、指摘された。信号は赤と黄色の区別が難しい。
- 15歳男 理科の宿題で困ったことがある。「何色のを取って」と言われて困った。
- 15歳男 黒板の朱色の字が読みにくく、近視のせいと思っていた。

(3) 高校、大学・短大・専門学校

高校、大学・短大・専門学校での受診動機のほとんどは進学就職に関与したもので、学校生活でのトラブルの報告は少なかった。ただパワーポイントのスライドで困難を訴える、大学生のものと思われる例があった。眼科の学会発表でも未だ配慮に欠けるスライドが少なくない現状を考えれば、岡島⁶⁾が提案した「文字は2色、グラフは3色まで」、「赤と緑、橙と黄緑の同時使用は避ける」など、色覚異常者に配慮したスライド作りを、広く社会に啓発する必要を実感した。また今後急速に進むことが予想される小中学校を含めた教育現場のIT化についても十分な配慮を持って対応する必要がある。

- 16歳男 美術の授業で絵の具を混ぜて色を作るのが苦手だった。
- 17歳男 リトマス紙のピンクと淡いブルー、地図の色が見えにくい。
- 21歳男 スライドでパワーポイントの色の区別がしにくい。

3) 日常生活に関するもの

日常生活に関するもので特徴的なものをいくつかあげてみた。学童期にはゲームや絵に関するもの多かった。身のまわりのことでは箸や洋服の色合わせ、赤と黒のボールペンの色、また焼き肉の焼け具合が分かり難いといった訴えも多かった。光源の色判別についての報告も多く、充電の色分けや、電球、交通信号に関するものが目についた。また省エネで注目されるLED光源であるが、色の認識に関しては従来の光源に比べ判別し難いとの訴えもある。今後、LED光源の発色に関する研究が進み、改良が加えられることを望む。

- 7歳男 ビーズの色分けて、やまぶき色と黄緑を「全部黄緑」といって分けていた。
- 7歳男 色鉛筆の色をよく尋ねる。
- 7歳男 視覚障害者用の黄色のブロックを黄緑という。
- 7歳男 茶色の犬を緑という。ハンバーグの色を緑という。
- 9歳男 名札のピンクとブルーを取り違えた。
- 9歳男 熟した赤いトマトなのか、熟していない青（緑）なのか分からぬ。
- 10歳女 ゲーム機で、画面の色が複雑な場合や変化が速い場合は見えづらい。

10歳男 ルービックキューブで色が分かりづらかった。
 11歳男 オリンピックの五輪の縁が赤にみえる。
 11歳男 赤い線の入ったビー玉の見分けがつかない。
 14歳男 焼き肉の時、焼けているか聞いてから食べる。
 肌色が分かりにくい。
 16歳男 プリンターのインクの交換でピンクと水色を間違えた。
 16歳男 美術で顔の影を緑に塗っていた。彼岸花が遠くからだと分からない。
 17歳男 焼き肉の焼け具合が分からず生肉を食べてしまうことがあった。
 17歳男 子どもの頃から箸の色合わせを間違えることがあった。
 18歳男 洋服を選んでいるとき、色の違いが分からなかった。
 18歳男 電球の色が分からなかった。
 18歳男 信号は色の並びを覚えているので支障はない。
 19歳男 充電のLEDの色に赤と緑があることを知らなかつた。
 19歳男 自動車学校で信号の色が分かりにくい。
 23歳男 赤のボールペンと黒のボールペンの字を区別しにくい。
 25歳男 信号の青が白っぽく見える。
 26歳男 尿路結石による血尿に気がつかなかった。
 58歳男 信号の青は分かるが、赤は遠方からでは分からにくい。

4) 進学・就職に関したもの

工業高校へ進学し、入学後の色覚検査で初めて異常を知り困惑したという報告が数多くみられ、進学指導が適切に実施されていない現状が伺えた。昨今、航空や船舶、鉄道関連、さらに警察官、消防士、自衛隊などの職業においても一部に色覚制限が緩和される傾向にあるが、就職に際して初めて自らの色覚異常を知った当事者たちの心情を考えればいたまれない気持ちになる。美容専門学校や写真関連の仕事では微妙な色の識別が求められるため、たとえ進学・就職ができたとしても、業務遂行にはそれなりの努力が求められることになる。

15歳男 本人の色覚異常には気づいていたが、競艇選手になりたいとのことで受診。
 15歳男 工業高校に進学したが、入学後の健診で色覚異常を指摘され困惑。
 16歳男 美容専門学校を希望するもヘアカラーが区別できない。
 17歳男 工業高校で電気関係の仕事を考えている。入学後の検査で異常を知ったが、早くから分かっていたら進路は違っていたんだろう。

17歳男 就職先の色覚検査で異常を指摘された。電気工事士の免許を取得したのに、将来が不安。
 18歳男 自衛隊志望だったが、色覚異常とわかり断念した。
 18歳男 異常があることは知らなかったが鉄道会社採用時の検査で要精査となった。
 18歳男 自動車整備業の就職試験で初めて色覚異常を指摘され驚いた。
 18歳男 今年警察官になる試験を受けに行き色覚異常を指摘された。
 18歳男 消防の仕事を希望し、願書提出の際に検査があり異常を指摘された。
 22歳男 航空大学受験希望、本人に自覚症状はなかった。
 23歳男 調理学校入学願書に添付する健康診断票に色覚異常の有無の欄があった。
 23歳男 海技士の受験手続の際、検査があり異常を指摘された。
 25歳男 警備会社に就職内定したが、入社の際に色覚異常を指摘された。
 27歳男 写真を扱う仕事に応募したところ、色覚異常の有無を問われた。

5) 仕事に関したもの

色覚異常と業務の支障の目安については中村⁷⁾の報告があり、以下の報告例と照らしあわせると興味深い。鉄道運転士には「色覚が正常であること」が強く求められており、中村の「色覚異常の程度による業務への支障の目安」でも鉄道運転士は「異常3色覚でも困難を生じやすい業務」となっている。また微妙な色識別が求められる農業生産物の選別、魚の鮮度判別、広告・パンフレット関係、仏像の修復、服飾関係、調理師、染み抜き作業などに係わる職業で困難を訴える事例があった。これら職業の多くは就職時に特別な資格や色覚制限もないため進路指導においては更なる注意を要する。将来のトラブルが予想される場合には、体験入社や業務配置などの交渉を含め、個々の状況に応じた配慮を持って対応することが求められる。その一方で困った時に同僚の助けを求めることで「業務への支障なし」とする例があったが、本人の意思と周囲の理解ある姿勢があれば色のバリアーを低くすることができる見本として挙げておいた。

18歳男 抵抗を色帯で区別するのが難しいが、同僚に教えてもらっているので支障ない。
 18歳男 福祉施設で働いているが、入所者の顔色が判別できず、また古いタオルの色間違いをする(新しいタオルは分かる)。
 22歳男 鉄道会社で勤務している。運転手を希望し部

- 署変更を願い出たが色覚異常では変更できないと言われた。
- 23歳男 職場で色判別に困った時には同僚に見てもらうため支障はない。
- 25歳男 農業職を希望して転居したが、生産品の選別での影響が心配。
- 26歳男 広告関係の仕事で（色による）ミスが続いている。
- 29歳男 パンフレットの製作でトマトの色がおかしいと指摘された。通常、パソコンを使用しているので不便は感じていない。
- 34歳男 仏像の色あせなどが判断できなく困っている。
- 35歳男 アパレル関係の（色に関する）細かい仕事が増えそうで困っている。
- 38歳男 刺身の鮮度が分からず古いものを出した。肉の焼け具合も分かりにくい。
- 47歳男 布の色合いを誤りトラブルになりかけている。
- 55歳男 クリーニング業だが、染み抜き作業の時のシミの色が分からない。
- 66歳男 請求書など伝票の色（赤、緑、青）の区別が分かりづらい。

III. まとめ

- 「トラブルやエピソード」については 660 例の事例報告が得られた。うち 498 例の内容を検討し、その一部を「未就学児」「学校生活」「日常生活」「進学・就職」「仕事」の 5 つに分けて紹介した。
- 未就学児では日常の遊びや、園でのお絵かき、ぬり絵の際に、保護者や園の先生など、周囲の者が気づくことが多かった。
- 小学校低学年では、まだ自身の色覚異常に気づいていないことが多く、学校でのトラブル、とくに図画

の教科での報告が多かった。小学校高学年になるとにつれ、周りの者から指摘されたり、自ら気づきはじめたことをエピソードとして報告する例が増えた。

- 中高生になると美術の授業や美術部の課外活動のなかで、周囲の者から指摘され、色覚異常に気づいた事例が多かった。
- 日常生活のなかで電気器具の充電や交通信号など光源色の判別に関するエピソードが多く、LED 光源の普及を考えれば今後適切な対応策を講じる必要を感じた。
- 進学・就職では工業高校へ進学した者が、入学後実施された色覚検査で初めて異常を知り、将来に不安を覚える内容の報告が数多くみられ、色覚に関する進路指導の改善が必要と感じた。
- 仕事にしたものでは、微妙な色識別が求められる職業、すなわち農業生産物の選別、魚の鮮度判別、広告・パンフレット関係、仏像の修復、服飾関係、調理師、染み抜き作業などに係わる職業で困難を覚えている事例があった。

【文 献】

- 1) 宮浦 徹、宇津見義一、柏井真理子、他：平成 22・23 年度における先天色覚異常の受診者に関する実態調査. 日本の眼科 83: 1421-1438, 2012.
- 2) 武田忠雄：先天色覚異常者に対するぬり絵テストについて. 日本の眼科 66: 237-240, 1995.
- 3) 文部省：色覚問題に関する指導の手引. 1991.
- 4) 文部科学省：色覚に関する指導の資料. 2002.
- 5) 日本学校保健会：みんなが見やすい色環境. 2007.
- 6) 岡島 修：学会発表用スライドの作り方—色覚異常者に配慮した発表. 日本の眼科 70: 1057, 1999.
- 7) 中村かおる：色覚異常の生活指導. 日本の眼科 83: 588-592, 2012.

資料1. 調査報告書

◆◇◆ 送信先FAX番号: 0120-887-597 (フリーダイヤル) ◆◇◆
【先天色覚異常の報告書】(改訂版)

【報告者】

支部名_____ 医療機関名_____ 報告者名_____

【症 例】

受診日	平成 年 月 日	年 齡	歳	性 別	1. 男	2. 女
-----	----------	-----	---	-----	------	------

1. 初診時における学校・学年の区分 (再診時でも初診時の学校・学年区分をご記入下さい)

- | | | |
|---------------|------------------|--------------|
| 1. 未就学児 | 2. 小学校 () 年 | 3. 中学校 () 年 |
| 4. 高校 () 年 | 5. 短大・専門学校 () 年 | 6. 大 学 () 年 |
| 7. 社会人 (職業:) | 8. その他 (具体的に:) | |

2. 受診の理由

(1) 色覚のことで受診された理由をすべて選んでください (〇はいくつでも)

- | | | | |
|---------------|----------------|---------|-----------------|
| 1. 身内に色覚異常がいる | 2. 子どもの色覚がおかしい | 3. 学校健診 | 4. 進学 |
| 5. 就職 | 6. 仕事のこと | 7. 結婚 | 8. その他 (具体的に:) |

(2) 本人または保護者は異常があることに気づいていましたか

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. 気づいていた | 2. 気づいていなかった |
|-----------|--------------|

3. 色覚検査と結果

(1) 色覚検査表: 実施した色覚検査表名に「✓」して結果(異常の型)を選択してください

✓	色 覚 検 査 表 名	結 果 (異常の型*)
	石原色覚検査表	i. 1型色覚 ii. 2型色覚 ⅲ. 判別不能 iv. 異常なし
	東京医科大学式色覚検査表 (TMC)	i. 1型色覚 ii. 2型色覚 ⅲ. 判別不能 iv. 異常なし
	標準色覚検査表 (SPP-1)	i. 1型色覚 ii. 2型色覚 ⅲ. 判別不能 iv. 異常なし
	新色覚異常検査表 (新大熊表)	i. 1型色覚 ii. 2型色覚 ⅲ. 判別不能 iv. 異常なし

※ 1型色覚 (旧用語の第1色覚異常、赤色盲・色弱)、2型色覚 (旧用語の第2色覚異常、緑色盲・色弱)

(2) パネルD-15の結果

- | | |
|------------|--|
| 1. 所有していない | 2. 所有しているが実施していない |
| 3. パス | 4. フェイル ⇒ (i. protan ii. deutan ⅲ. 判別不能) |

(3) アノマロスコープの検査結果

- | | |
|--|-------------------------------------|
| 1. 所有していない | 2. 所有しているが実施していない |
| 3. 実施した ⇒ アノマロスコープの ① (i. 1型 ii. 2型 ⅲ. 異常なし) | 検査結果 ② (i. 2色覚 ii. 異常3色覚 ⅲ. 異常なし) |

4. 本人や保護者から得られた、色覚に係わるトラブルやエピソードをご記入下さい。■重要

--

～ご協力ありがとうございました～

◆◇◆ 送信先FAX番号: 0120-887-597 (フリーダイヤル) ◆◇◆

資料2. エピソードの内容

本人や保護者から得られた、色覚に係わるトラブルやエピソード498例を、その内容により日常生活(214)、学校生活(81)、進学・就職(92)、仕事(36)、その他(75)に分けて示した。各事例の内容はこれら項目を複数含んだものもあり、およその分類となっている。なおエピソードの記載については原文どおりを基本としたが、個人の特定につながる記述については修正した。

【日常生活】 214

1	3歳	男	色を聞くと全部「赤」と言う（母親から問診）。
2	4歳	男	携帯ゲーム機で色の判別が求められるものが苦手。
3	4歳	男	(母親より) 母の叔父が色覚異常。1歳頃から赤と緑の区別がつかなかった。おもちゃやクレヨンの赤・緑・茶の3色が特にわからず、聞いてくることが少しちゅうある。
4	4歳	男	ビーズ遊びで小さい透明な色の区別ができなかった（オレンジ、黄緑、黄色）。プチトマトを「赤い？」と聞いていた。紫色と水色を間違うことがある。近医眼科で診断の確定ができないと言われた。どの様に見えているのか母親として不安がある。
5	5歳	男	よく色を間違えると母親が気づいた。
6	5歳	男	絵を描く時、緑と茶、青と紫を混同する。
7	5歳	男	グレーをピンクと言ったり違って言うことがある。
8	5歳	男	塗り絵の時、黄緑をオレンジに灰色をピンクに塗る。
9	5歳	男	桜の色は白い。ラムネ菓子の色がわかりにくい。血豆を緑といった。
10	5歳	男	色を言ってもよくわからないような反応をする。絵を描く時に違った色を使う。
11	5歳	男	ゲーム機の充電の色（燈と黄緑）が区別できない。姉に色間違いを指摘され、よく喧嘩になる。
12	5歳	男	お母様より「本人の言っている色が違うようだ」とのこと、色覚検査を希望されました。本人も、ご兄弟に色の違いを指摘され、嫌な思いをされているそうです。
13	5歳	男	ビルのレンガ（茶色）を紫色といったり、TVの緑のdotを赤色といったり、色の間違いが多くて気になっていた。ゲームでオレンジ色と黄色を間違ったりしていた。家庭でどう対応したらよいのか不安である。
14	6歳	女	幼少期より、緑を茶色といっていたそうです。
15	6歳	女	幼少期より色を覚えるのが遅かった。緑を茶と言った。
16	6歳	男	黄緑色を黄色と間違う。
17	6歳	男	絵を描くと色を間違えて塗る。
18	6歳	男	薄いピンクと灰色の区別がつきにくい。
19	6歳	男	絵を描く際に黒っぽい色をよく使用する。
20	6歳	男	緑と赤を取り違える（母親から問診）。
21	6歳	男	緑のかばんを灰色のかばんと言っていた。
22	6歳	男	本人が信号の色は順番を覚えたから大丈夫と言った。
23	6歳	男	ピンクと黄色を間違える。他、色の取り違えがある。
24	6歳	男	2年前にクリスマスツリーの絵を描かせたら木の葉の色を赤で書いた。
25	6歳	男	兄が二人いるが、三男だけが絵を描く色がおかしいと母親を感じていた。
26	6歳	男	クレヨンの色選びの時、本人が母親にこれ何色とよく聞いたので親が気づいた。
27	6歳	男	4歳の時、色使いのおかしい絵を描いていることに気づき気になっていた（オレンジと黄緑）。

28	6歳	男	赤を茶、緑を肌色と間違えた。身内に色覚異常の者もいるので、本人の状態を知りたいと思い受診した。
29	6歳	男	緑の草の中で赤色の花を見た時、花がわからなかった。肌色と黄緑色が同じに見える。母の父が色覚異常。
30	6歳	男	幼稚園の先生から灰色が分かりにくいうだと指摘された。母親は赤や緑の区別がつきにくく感じていた。
31	6歳	男	父親より、茶色と緑が一緒になっているようで、緑を茶で色づけしていた。絵に色をつけない。空だけは綺麗に塗る。
32	6歳	男	3~4歳、グレーを緑と言っていた。5歳、色遊びで母親異常に気付く。信号機は判別可能。祖父に色覚異常がいる。
33	6歳	男	うすい紫と汚れた青がわからない。2色を使っていたが、本人は1色のつもりだった様だ。赤とオレンジを間違えた。
34	6歳	男	おもちゃの宝石をつかむ時に、白・ピンク・ブルーを間違って区分けする。母方の祖父、白とピンクの見分けが悪い。
35	6歳	男	H 21. 12月頃より色を間違えることがある。学校の先生にお話しした所、学校で色覚検査をしたが、やはりわからない部分があった。
36	6歳	男	中間色（黄緑など）がわかりにくい。紺色と青、黒、紫がわかりにくい。藤色系がわかりにくい。母親は色の名前がわからないと思っていた。
37	6歳	男	日常生活では困っていない。折り紙で遊んでいる時に、薄いピンクとシルバーを間違えた。近くの眼科で検査してもらったが、どうしたら良いか、不安なのでインターネットで調べて精査目的で来院した。
38	6歳	男	幼い頃から色を言い間違えることがあるとは思っていたと。母の弟と祖母が色盲だと聞いていたので怪しいとは思っていたようですが、確信はなかったようです。母の弟さんが生活上困った話も聞いたことがなかったそうです。
39	7歳	男	色名を間違った事がある。
40	7歳	男	蛍光の緑を黄色という。
41	7歳	男	3歳児の頃から色をみて間違えていた。
42	7歳	男	弟が描いた絵の茶色を緑色と言った。
43	7歳	男	ブロックで遊ぶ時に、茶色、緑、赤で悩む事がある。
44	7歳	男	会話の中で色についてだけちぐはぐな答えが多かった。
45	7歳	男	3~4歳頃、塗り絵で違う色を塗ることがあったようです。
46	7歳	男	日常生活で少し気にかかったので、調べてもらいました。
47	7歳	男	絵をかいている時に母親が「あれ？」と思うことがあった。
48	7歳	男	蛍光色の黄緑を黄色と言ったことがあるが、全く気に止めていない。
49	7歳	男	保護者より、ピンクという色がわかりにくいと気がついていたとのこと。
50	7歳	男	「うつし絵」をする時に、色使いがおかしいことを母が気づいた。母も色覚異常のこと。

51	7歳	男	祖父が学校の検査で色弱と言われたことがある。5歳頃から、色を聞くと違う色を答えることが度々あった。
52	7歳	男	昨年、お絵かきの時に、本人が言った色と実際に取った色が違った。母親の「緑色」の洋服を「紫」と言った。
53	7歳	男	一週間前に夏休みの宿題をしていて緑と赤の色鉛筆を間違えた。母方の祖父が色弱であるため心配になり来院した。
54	7歳	男	本人がビーズの色分けをしていて「やまぶき色」と「黄緑」を全部「黄緑」と言って分けていたため異常を感じた。
55	7歳	男	(母親より) 色鉛筆の色をよく聞きにくくことで気づく。特に茶色と緑色の鉛筆を持ってどちらの色か聞くことが多い。
56	7歳	男	母親より、何となく色覚がおかしいと訴えがあり、現在学校では配慮がないため、現状を担任に伝えるよう指導しました。
57	7歳	男	組立用の小ブロックの黄と黄緑、緑と茶を間違える。公園の木の葉を茶色という。視覚障害者誘導用ブロックの黄色を黄緑という。
58	7歳	男	緑の色を塗ろうとして茶の色鉛筆を持ってしまう。注意すると緑に持ちかえる。緑と茶の区別がつきにくい。将来の職業に関して質問を受けた。
59	7歳	男	金魚の水槽の中の灰色の小石を緑と言っていた。近くの眼科で検査してもらったが、もう一度精査してほしい。担任の先生には色覚の特性があることを話している。
60	7歳	男	葉っぱを茶色に塗ることがあった。ブロックの色が薄い緑と黄色にわけられているがわからなく、おもちゃの片付けができなくて、叱っていた。薄い緑をグレーと間違える。
61	7歳	男	赤とくすんだ緑色が反対になる事があった。リモコンの緑と赤がよく分からぬ様だ。2年生の夏休みに担任の先生に相談したら同様の事があったと言われた。インターネットで検索して受診した。
62	7歳	男	祖父が色覚異常で本人が色鉛筆の色を間違っていた事があり気になっていた。近医眼科では小さくて検査できないと言われた。放っておいて良いと言われたが、インターネットで調べると精査できるとあり受診した。
63	7歳	男	茶色の犬を緑と言う。物を探すのが苦手。草むらの中の鳥が見つけられない。ハンバーグを緑と言う。おじさん2人が色覚異常なので親戚が集まって焼き肉をすると皆で「赤だ」、「緑だ」と言い合って和やかである。
64	7歳	男	保育園でお絵かきの時、ラディッシュの葉、茎、実を全部茶色で書いた。ドラえもんの塗り絵をする時、母親にこれで合っているか聞きながら、色の名前を確認して描いた(父親は石原表、標準色覚検査で2型、パネルD-15はPassであった)。
65	8歳	男	色使いに親が気がつく。
66	8歳	男	黄色と黄緑色の区別がつかない。
67	8歳	男	紫色をピンク色と言い張ることがあった。
68	8歳	男	折り紙の色を何色か母親に聞くことがあった。
69	8歳	男	オレンジ、緑、茶系の色鉛筆の区別がしにくいくのこと。
70	8歳	男	赤い色を茶色を使用してぬり絵をする。他の人とは違う色づかい。
71	8歳	男	色鉛筆でグレーと茶色の区別がつかない。緑と茶色が分かりにくい。

72	8歳	男	青と紫、赤と茶、個々に見たら分かるが、共に比べたら区別できない。
73	8歳	男	両眼の視力低下で受診。その際、以前に青信号が見づらい様だと両親から指摘あり。本人は気づかず。
74	8歳	男	母親の兄弟に色覚異常があり、学校の検査で知られたが、受診していなかったが、時々色の間違いがあり、確認のために受診した。
75	8歳	男	母方の父親が色弱で長男ができたときから気にかけていた。患者も色がはっきりしなさうなので、全て茶色というのうそうかなと思っていた。
76	8歳	男	幼稚園入学時から色の区別がついていないような感じはあったが、そのままにしていた。オレンジを何色に見えるか尋ねた所、黄緑と答えたため受診。
77	8歳	男	幼稚園の頃から色が見分けにくい。ルーピックキューブをしていてオレンジ色、黄緑色、黄色が混在しているのに一面全てオレンジ色で合っていると言った。図工で色彩画の色づかいが他の子供とは違う。描く人の肌の色が茶色っぽい。
78	9歳	女	幼児期より、お絵かきの時に赤とか紫とかの原色を好む傾向があった。
79	9歳	男	時々黄色を黄緑と言う。
80	9歳	男	赤と白が分かりにくい。
81	9歳	男	灰色が緑色に見えるときがある。
82	9歳	男	時々青や紫色を違う色に答える。
83	9歳	男	TVのオレンジ色が黄色に見える。
84	9歳	男	絵を塗る時に色使いがおかしかった。
85	9歳	男	青色と紫色の判別ができない時があった。
86	9歳	男	小さな頃から「何色?」とよく質問する。
87	9歳	男	名札のピンク色とブルー色をとり違えた。
88	9歳	男	蛍光色の黄色・黄緑が少しあかりにくい。
89	9歳	男	トマトの色が青い(緑)のか赤いのかわからぬ。
90	9歳	男	双子のひとり。水色とピンク色を間違える。
91	9歳	男	幼稚園の時、キュウリを茶色く塗り気付いた。
92	9歳	男	祖父が色盲。本人も茶や赤の色がわかりにくい。
93	9歳	男	灰色や緑の判別ができないと母は感じていた。
94	9歳	男	小さい頃は色鉛筆の色が分からなかった。最近は問題ない。
95	9歳	男	幼稚園の頃から、茶色と緑色を混同することがよくあった。
96	9歳	男	茶色のバスタオルを緑と間違えたことで母親が異常に気づく。
97	9歳	男	母親が色の名前を尋ねた時、違う色を答えて、その後で訂正していた。
98	9歳	男	本人より、小学2年生の時に、色のことでトラブルがあったとのこと。
99	9歳	男	日常生活に特に支障はなかったようです。緑を茶色と言うことがあったようです。
100	9歳	男	家で色の話をした時になんとなくおかしいと感じたとのこと。日常生活問題なし。
101	9歳	男	グレーの色が緑色に見えるとの事(母親談)。肉の色だけでは焼けているか否か不安。
102	9歳	男	緑とオレンジ、肌色と黄緑を間違って塗っていたので、おかしいと思い調べに来られました。
103	9歳	男	緑、茶、グレーの色別に不安定であることを親は感じていた。母親の姉の男の子が色覚異常であるため精査目的で受診した。

104	9歳	男	ゲームでわからないことがある。ハンバーグの中が焼けていないのがわからなかった。色の間違い探しで赤と緑の隣り合っているのがわからなかった。
105	9歳	男	幼児の頃より、変わった色遣いをすることがあった。塗り絵で、黄色を「橙色」で塗ったり、6歳頃、熊の絵を「紫色」で描いた。本年3月、茶色のものを「黒」とか、緑色のものを「青」とか言うので、保護者が心配して来院した。
106	9歳	男	赤信号と青信号の区別ができないことがあった。先天色覚異常の方のための色の確認表(中村ら)では青と紫の誤認。City University Color Vision Test (3rd Edition) Part Oneで灰色とうまい緑、薄いピンクの混同。母親が2型色覚。母親の兄も色覚異常。
107	10歳	女	ゲームの画面で色が複雑な場合や、変化が早い場合見えづらい。
108	10歳	女	絵を描く時に絵の具の選び方に異常を認めた。母親の父と父親に色覚異常あることがわかついたため心配になった。
109	10歳	男	緑と茶色のビーズをよく間違えた。
110	10歳	男	色鉛筆の緑と茶を間違ったことがある。
111	10歳	男	色の区別がつかず困ることが多いとのこと。
112	10歳	男	漢字の勉強中薄い赤緑をなぞることができない。
113	10歳	男	ピンクが分かりにくいか、それ以外母親も異常に気がつかない。
114	10歳	男	ルービックキューブを行っている時、色がわかりづらかった。
115	10歳	男	赤の判別が難しいことがあった(看板の文字が分からぬなど)。
116	10歳	男	絵を描くときに、いろいろな色づかいをする(色彩がばらばら)。
117	10歳	男	紫色と灰色が区別しにくい様子がみられたとのこと(母親談)。
118	10歳	男	「緑色」の色名に対応する色がわからない。緑と赤、灰色の判別に時間がかかる。
119	10歳	男	幼稚園の時、家族が色の見分けがついてないことに気づいた。薄桃一白、紫一青、茶一赤。
120	10歳	男	赤とオレンジ、緑と茶色、青と水色、ピンクと灰色等、判別しづらい(学校の黒板も時々みにくい)。
121	10歳	男	受診前に普段の生活で、父親が自分の色の認識と違うことを一度だけ聞いたことがあったそうです。
122	10歳	男	本人が異常に気づいており、素直に“わかりにくい”とか“違って見える”等言っているとの母の弁。
123	10歳	男	お母様よりぬり絵でたくさんある色鉛筆から選ぶ時、本来とは違うおかしな色を選ぶ。本人は特になし。
124	10歳	男	本人が2年生の時、色の区別ができなかった。“色盲”検査してほしい(学校よりの紹介もあった)。
125	10歳	男	小さい時から色に興味がなかった。ルービックキューブで色がそろったと言ったが、違っていておかしいと思った。
126	10歳	男	ゲームの充電のランプの色(赤)を違って言っていた。最近では携帯電話のランプの色に変なことをいったので来院。
127	10歳	男	今までトラブルはなかったが、色を間違えることがあった。絵を描く時、グリーンの鉛筆のつもりが他の色だったことあり。

128	10歳	男	学校健診で視力不良を指摘され、受診した際に「色鉛筆の茶と緑を間違える」との相談があり、石原式にて異常が発見された。
129	10歳	男	赤と茶色を間違うことがあったが、幼かったため気にしていなかった。今後の対応の仕方や、職業上の問題について悩んでいる。
130	10歳	男	色を見ても異なる色名を言うことがあった。祖父が色覚異常と言われており(母方)、遺伝性と程度を調べてもらうために来院した。
131	10歳	男	ゲーム機の充電ランプの色が区別できなくて、「変だな」と気づいた。母親の両親が離婚しているため、自分が保因者である認識がなかった。
132	10歳	男	黄色と白っぽいもの間違えたり、黄色のものをもってきてと頼むと黄緑をもってきていたことがあり、小学校に入った頃から気になっていたとお母様。他から言われたことは特になし。
133	10歳	男	本人に自覚なし。母親より「色の判別が困難な時がある」とのことでの受診された。授業中、特に支障はきたしていないという。将来の職業の制限の話をした所、逆に「非常にありがたかった…」と喜ばれた。
134	10歳	男	絵を描いている時に、マジックや色鉛筆を差し出して「これ何色?」と尋ねてくることが多く、気になっていた。青や紫がわかっていないことが多かったよう。最近、黒と赤も区別できていよいよなのできちんと検査しようと思って受診した。
135	10歳	男	本人母方の父親兄弟が色弱。本人も恐らく色弱だと思います(母)。色鉛筆など、色の名前が分からぬいため、名前を見ながら使っていると思っていた。お絵かきでも使う色が他の子と違う。本人の妹が「赤色とて」と言っても茶色をとってしまったりする(母より)。
136	10歳	男	小さいときから気になっていた。積み木の色、オレンジと黄色を間違う。歯ブラシの薄いブルーと薄いグリーンを間違う。音譜の色の音符がわからないなどがあった。小4で検査があることを知って、検査を受けた。近医では詳しくわからないので当院に来た(インターネットでパステルから)。
137	10歳	男	薄いピンクの花を白と言ったことがある。漫画の絵の薄い紫の色を違う色と言った。何度も確認すると正確な色を言った。学校で色を少しずつ考えて20色並べるのは普通に出来た。親の家業が染工屋会社を営んでおり、いずれ色の識別が必要となる職業に就くので、今回の色覚異常の指摘に関し感謝されました。
138	11歳	男	色鉛筆の使い方が弟と異なっていた。
139	11歳	男	4歳の頃、アンパンマンの服を緑色に塗ったことがある。
140	11歳	男	色覚を見る本で数字がないのに「ある」と言いました。
141	11歳	男	色のことで友人と口論になった。幼少時より色を間違えることが多かった。
142	11歳	男	テレビの主電源線のランプが赤に見える。オリオンピックの五輪の緑の輪が赤に見える。
143	11歳	男	赤い線のビー玉の見分けがつかない。幼稚園の頃色覚検査を受けたが、うまく答えられなかっただ。
144	11歳	男	友達や兄弟と色を使った遊び道具や、絵を描く時に、他の人と違う色遣いをするので母親が気にしていた。
145	11歳	男	絵の具など色名がないと分からない。本人が、色覚矯正用メガネを欲しいと言い出し、学校で苦労しているのだと思うとかわいそうに感じる。

146	12歳	男	緑色を紫ということがあった。		169	15歳	男	青が白く見える。
147	12歳	男	ソファのクッションの色を間違えた。		170	15歳	男	赤・茶・緑が判別しにくい。薄い色も判別しにくい。
148	12歳	男	日常生活で色がわからない(保護者)。		171	15歳	男	本人と母親の両者が色覚がおかしいことに気付いた。
149	12歳	男	ゲーム(DS)の充電残量の赤いランプの色がわからない。		172	15歳	男	母は色覚検査を行ったことはないが、緑とピンクが判別しづらいので、遺伝していないか気になり受診。本人は特に自覚ない様だった。
150	12歳	男	普段、赤と橙が分かりにくいうなことを言うことがあった。		173	15歳	男	学校にて色覚検査を行い病院にて精査するよう言われたため来院。ご家族方色覚異常者おらず。本人さん他の人と言っている色が違うことがある。
151	12歳	男	保護者より→昔から色についておかしいと感じたことがある。		174	15歳	男	母親によると、小児の時、信号の色の表現がおかしかった。色覚検査は今回初めてだが、最近本人が自分は色覚異常ではないかと思い始めたため、健診で検査を希望した。
152	12歳	男	本人:黄緑色が区別しにくい。母:家族、親戚に色覚異常の方はおりません。		175	15歳	男	小6の時、担任の先生より絵の色使いについて指摘を受けたが、当時は女の子の様にカラフルに色を使わないので、色の名前や区別が覚えられないだけだろうと聞き流していたと(母親)。
153	12歳	男	黒が赤くみえたり、青くみえたりする。小学1年生の時、学校での色覚検査はパスした。		176	16歳	男	淡いピンクと緑の区別がつきにくい。
154	12歳	男	祖父が色覚異常であった。緑と黄の区別がつきづらいと自分では思っている。自衛隊に入りたい(父が自衛隊員)。		177	16歳	男	色をみてると違う色の名前を言う。
155	12歳	男	本人は不都合はなかったようですが、母親は緑やオレンジのぼやけた色が見えにくいようだと感じていて学校健診で希望したそうです。		178	16歳	男	昨年頃、時々色の違いがよくわからないことを自覚。
156	12歳	男	ピンクとうすい緑を時々間違えている(母親の話)。黒板の色チョークの黄と白が見分けにくい。黒板の色が半分黒で半分緑という時があった。		179	16歳	男	10歳頃より本人が色が見分けにくい、特に淡い色がわからないとの自覚があった。
157	13歳	男	色が薄く見える。		180	16歳	男	母親がプリンターのインクの変換をさせたところ、ピンクと水色を間違えた。工業高校電気科在学中、今迄母も本人も気付かず。
158	13歳	男	青色が分かりにくい。		181	16歳	男	茶色と緑色を間違える。人の顔の影の部分を緑色に塗った。彼岸花が遠くからだと咲いているのがわからない。色紙を使った貼り絵で薄い色ばかりを使う。9年前に一度検査済み。今回は社会科の教員になりたくて再検査。
159	13歳	男	青緑と紫色がわかりにくい。		182	16歳	男	4歳頃、ゲームをしている時、オレンジの色が分かりにくいのに母親が気づいた。ネットで調べて、色覚異常かもしないと母親の親戚に相談したら、祖父に色覚異常がある事が分かった。進学のため、精査を希望して受診した。学校では検査していない。
160	13歳	男	ゲームの充電のランプの表現が家族と違う。マジックペンの色がすぐにわからない。		183	17歳	男	赤と緑を間違える。
161	13歳	男	近視による視力低下で受診したが、日常生活で両親が少し気になっていたため検査(信号など)。		184	17歳	男	様々な色のある中で、ピンク色が灰色に見える。
162	13歳	男	半年位前より色の区別がはっきり分からぬ時があり、気づいたら違う色同士の箸を持っていたりした。紫の色が特に見えにくい。		185	17歳	男	父親が日常生活で本人の色覚に異常があるのは気づいていた。
163	13歳	男	中3の秋頃、自衛隊の試験を受ける事に関連して色覚検査を希望され受診。小6の時、父親に言わされた色と違うバスマットを持ってきて家族は気づいた。同時期近医を受診し、色覚異常を指摘され遺伝のことも聞いて母親は自分の父が色覚異常であったことを初めて知る事になる。		186	17歳	男	焼き肉が焼けているかどうかわからないで、生肉を食べてしまうことが多かった。
164	13歳	男	母方の祖父が色弱でパステルカラーの色を間違えることを母親が気にしており、幼少時期(幼稚園時)に一度検査し、どの程度かは不明だが大丈夫と言われていた。本人自覚症状(-),小学生の時学校で色覚検査を受けた記憶なし。家族歴のこともあり気がかりになっていての受診。		187	17歳	男	「母親のひいじいちゃんが、色覚に異常があった」と聞いた事がある。本人は服の色がピンクを白と言った事で人から言われて。
165	14歳	男	母親の観察にて、子どもが緑がかった黒色を見るときに答える色が何かおかしいと感じて受診。		188	17歳	男	赤と緑の区別が時々わからないことがあったが、本人は受診する間近まで誰にも言わずにいた。生活上の支障はなかったとのこと。
166	14歳	男	日常生活困っていない。ジーパンの色(グレー系)を深緑色と本人が言っていたのを母親が気になり受診。父と祖父が色の判別が難しかったことも上記とあわせて受診のきっかけ。		189	18歳	男	ゲームのランプの色が分からぬことあり。
167	14歳	男	焼き肉をする時はよく焼けているか聞いてから食べる。お絵かきの時に使用する色は青か黄が多い。肌色がわかりにくい。信号の判断が慎重になった。偏食する(食材の色の見え方の関係か?)。色の確認表(中村ら)では青と紫の混同あり。		190	18歳	男	赤と茶、赤と緑の区別がつきにくいことがあった。
168	14歳	男	小さい頃から赤いものを緑色に塗るのでおかしいと母親は思っていた。本人も自分の色の見え方は何かおかしいと気付いていたが、相談したり、受診したりはしなかった。今回当院にははあるポスター(石原式のタイプ)をみて、異物で受診したが相談した。		191	18歳	男	洋服を選んでいる時に、色の違いが分からなかった。
					192	18歳	男	自動車運転中に夜の信号の黄と赤で迷うことがある。
					193	18歳	男	色をたずねた時、妹の答えと異なったことが時々あった。

194	18歳	男	電球の色がわからず（赤色？）親に色弱と言わされたことがあったが、詳しくは今まで教えてもらっていない。
195	18歳	男	5年前から赤色のものが緑色にみえると言っていた。今回、ソフトコントラクトレンズ作成を希望し初診。色覚検査を御本人、母親（付き添い）が希望した。
196	19歳	男	本人、母親が気づいていて心配だった。
197	19歳	男	友人に○○色のカバンを取ってと言われ、分からなかったことがあり気付いた。
198	19歳	男	小3の健診まで気づいていなかったが、その後赤と茶、薄い赤緑などがわかりにくい。充電のLEDランプに赤と緑があることを知らなかった。
199	19歳	男	小学校にて色覚異常疑い、眼科受診したところ赤緑色弱と言われた。自動車学校にて、信号の色がわかりにくい。…でも本人あまり気にしていない…とのこと。
200	21歳	男	ピンク、水色、灰色の区別が難しい。
201	22歳	男	色を間違えることがあった。
202	22歳	男	黄、黄緑の縞模様の着物、同色と見ている。

203	22歳	男	小学校1年生時の検診でひっかかった。微妙な色の違いは区別しにくいと感じている。
204	23歳	男	ピンク→白と誤認。
205	24歳	男	なし（本人からは）。同伴の父親からは微妙な色の判断は不得意で紫と青などが苦手であると感じていたとの説明があった。
206	25歳	男	信号機赤を主として判別しにくい。
207	25歳	男	本人は気付いていないが、親は暗いところで色の判別がおかしいことに気付いていた。
208	25歳	男	信号の青が白っぽく見える。赤黄の区別が難しい。図工のとき単純な色ばかり使っていた。顔色が悪いというのがわからない。などなど。
209	27歳	男	信号がみにくいく。
210	30歳	男	塗り絵が苦手だった。絵を描くのも避けていたが、賞をもらったことがある。
211	38歳	男	赤一緑、あいまいな色区別つきにくい。信号が分からぬ時がある。
212	58歳	男	彼岸花が咲いているのかわかりにくい。信号灯の青はわかるが遠方からだと赤がわかりにくい。
213	63歳	男	信号機が見にくい。
214	72歳	男	サザンカ、つばきの花などわからない。

【学校生活】 81

1	4歳	男	色名の書いてないマーカーペンのうち赤と茶の色の判別が分からぬことを幼稚園の先生に指摘され、眼科受診をすすめられた。振り返ってみれば色名を覚えるのが遅かったが、色覚異常のせいだとは気付かなかった。
2	5歳	男	お絵かきで、顔を緑色にしていた。
3	5歳	男	幼稚園の先生から、赤と緑が茶色に見えていた。
4	5歳	男	保育園でクレヨンの色がわからぬことで、眼科受診をすすめられた。
5	5歳	男	幼稚園のお絵かきで先生から、肌色のクレヨンが選べない…と言われて。
6	5歳	男	赤系が生活していく絵をかいたりする時にも弱い様子。姉に色鉛筆の色の質問をする。お絵かき、図工の時にいろいろ事件があるとのこと。
7	5歳	男	青と紫を間違える。赤と茶色、緑色が分かりにくい。幼稚園で色の間違いが多いと指摘されている。どう対応したら良いのか知りたくて受診した。
8	5歳	男	小学校の学校用紙にて、色覚異常を指摘され当院を受診。お母さんより時々色を間違えるとのこと。色覚検査実施しましたが、本人さん年齢がまだ低く検査が難しい様子。石原色覚検査表も、パネルD-15も判別不能。
9	6歳	男	保育園の頃から、クレヨンの赤・緑・茶の区別が曖昧だった。
10	6歳	男	学校で色の区別に問題があると先生に言われた。学校では検査しないため、眼科受診するようすすめられた。
11	7歳	男	秋の葉の色という課題で緑色に塗った。
12	7歳	男	幼稚園で先生が示した紫色が分からなかった。お寿司屋さんでサーモンを緑色と言った。
13	7歳	男	色の名前を間違える（家庭・学校）。両親は（-）、祖父母（-）、両親の姉の息子はどうやら（+）だと…。
14	7歳	男	学校で絵を描くときに、黄緑色のところを茶色で塗ると教師から親に指摘された。黄緑色のハンカチがグレーにみえると言う。
15	7歳	男	学校の先生から、図工の時の色使いがおかしいことを指摘されており、家でも緑と茶色の区別がしにくいことに気がつかれていた。

16	7歳	男	学校の色覚検査でひっかからなかった。不同視弱視で通院中である。学校の先生が何色の色鉛筆をとったと言った時、違う色を渡した。
17	7歳	男	幼稚園の頃から色別ビーズの片付けがバラバラであった。学校の先生に絵の具の色の使い方がおかしいと指摘された（母親の弟と母親の祖父が色覚異常）。
18	7歳	男	赤を選べない。青と紫を間違える。保健室で簡単な色覚検査でひっかかった。幼稚（保育）園で、「これと同じ色のものとってきて」などと、色遊びをすると他の子供達のように素早く反応できないことがありますがあり気がかりだった等もあり（保健室）養護教諭の検査を受けたようである（母親談）。
19	8歳	女	教諭から図工の授業の際、絵の具の色彩が判別しにくいと言われたとのことです。
20	8歳	男	絵を描くとき色を確かめようとする。理科のプリントで色を草や花の色を塗るのがうまくできない。地図の色を問われてわからなかった。
21	8歳	男	絵を描くとき全体に黒っぽい色づかいをする。ピンクと緑、茶と緑、青と紫を色間違いした経験あり。学校生活で色間違いをして先生に「ふざけていてはダメ」と注意された事がある。
22	8歳	男	「学校の黒板の字で赤チョークの部分が見えない」と担任の先生に本人が伝えた。担任の先生が養護教諭と相談して検査をしたら色覚異常と出た。母親の父親（祖父）も色弱とわかっていた。
23	8歳	男	幼稚園で先生に色がわかりにくいと指摘され、当科受診、検査するも上手く言えず再検査を予定していた。しかし、受診せず。学校で色を塗り間違え（オレンジを緑色で塗った）本日当科受診して診断がついた。
24	8歳	男	今回担任の先生は兄弟に色覚異常の人がいて、説明しなくても配慮してくれるので助かっている。黒板に書く時のチョークは注意してもらっている。2年前に検査をしているが、もう一度再検査してほしいと思って受診した。
25	9歳	男	図画の時、絵の色を間違ったことあり。
26	9歳	男	黒板の赤いチョークの字を読み飛ばした。

71	16 歳	男	美術の授業で絵の具を混ぜて色を作るのが苦手だった。
72	16 歳	男	小学校低学年の時、母親の似顔絵を描いたが、皮膚の色が灰色だったと聞かされた。
73	16 歳	男	色覚異常に気づいていたが、眼科受診したことなく、学校でも検査受けたことなかった。今回、黒板（色チョーク）が見えない（矯正視力良好）と言い出し、眼科受診となつた。
74	17 歳	男	リトマス紙、地図の色が見えにくい。
75	17 歳	男	黒板の黄色でかかれた字が特に見にくく。
76	17 歳	男	黒板の字が見づらいため、色覚検査を希望。

77	18 歳	男	小学 1 年生時に担任の先生が気付いてくれた。小学 2 年生時に近医の眼科で検査をした事がある。幼稚園の頃から色の覚えが悪かった。緑が見にくく。
78	20 歳	男	小学校時、写生会で絵の色使いがおかしいと先生に指摘されたことがある。
79	21 歳	男	スライド、パワーポイントの色の区別がしにくい。黒板での色文字が見づらい。
80	23 歳	男	黒板の赤と緑の色が判別しにくい。
81	25 歳	男	小学校の健診でひっかかったことがある。小学校の時に、黒板の文字の白チョークと赤チョークの差がわかりづらかった。

【進学・就職】 92

1	12 歳	男	家業が電気工事業で、今回学校健診の色覚検査を希望して良かったとの母親の弁。
2	14 歳	男	わかりにくい色がある。工業高校への進学を希望しており、将来困るのではと心配。
3	14 歳	男	今後の進路を美術関係にしたい。そのために色覚を確認したかったと話されていました。
4	15 歳	男	水産学校の学生で、船舶免許の相談があった。進路を変更する可能性ある。
5	15 歳	男	母方祖父が色覚異常であり、本人の生活上色覚異常には気づいていたが、どうしても競艇選手になりたくて診断書をもらって来院。
6	15 歳	男	理科の宿題で困ったことがある。色鬼ごっこで困ったことがある。“何色のをとって”と言われて困ったことがある。将来の職業について相談したかった。
7	15 歳	男	進学の為に色覚検査が必要とのことで来院されました。本人は色覚異常に気づいていませんでした。その他、色覚に係わるトラブルやエピソードはありません。
8	15 歳	男	小学校で色覚検査は実施されておらず、5 歳上の兄を含め家族に色覚異常者はいないので本人及び家族も色覚異常との認識は全くなかった。工業高校入学時も色覚の項目はなく入学後の健診で指摘され当院受診した。工業高校に進学したが、将来の職業の選択に関して多少の不安を抱いた。
9	16 歳	男	生徒、保護者の希望により工業高校在学中なので学校で色覚検査をしたようです。
10	16 歳	男	中学生以降、色の区別がつかないことがあった。美容専門学校希望。ヘアカラーが全然わからない。赤の字が見にくかった。母親は本人が認識を持ってほしいと思って受診した。
11	17 歳	男	公務員試験受験のため来院。
12	17 歳	男	美容師希望だが、何か他人より色の感じが変だった（本人）。
13	17 歳	男	船舶免許を取得する際に、学校で検査され異常の疑いがあると指摘された。
14	17 歳	男	自覚的に色の区別がつきづらい。警察学校に入学したいが、問題ないか相談に来た。
15	17 歳	男	特にありませんが、就職は警察官になりたいとのことで、警察学校受験を希望しております。
16	17 歳	男	時々、自分の言った色と、他人の言った色が違うことがあった。就職のための学校の健診で、今回初めて指摘された。
17	17 歳	男	特に訴えはなかった。就職時に色覚検査がある場合があるとのことで、心配になり受診。製造業に就職希望のことでした。

18	17 歳	男	現在に至るまで、色覚に係わるトラブルはない様ですが、今後就職するのに問題がないかを心配されていました（将来は工学系に進みたいそうです）。
19	17 歳	男	工業高校メカトロニクス科のため電気の線の色を見分ける必要があり、学校健診で色覚検査を受けたところ指摘された。本人は今までトラブルの経験なし。
20	17 歳	男	2, 3 週間前から混ざり合った色がわからないのが気になっていて、保健室で検査してもらったら眼科受診をすすめられた。美容の専門学校へ行きたいとの事。
21	17 歳	男	今まで他人と見え方（緑や黄色の中間色）が違うとは思っていた。3 年生に進級するにあたり、卒後の就職先によって色覚が関係あると進路指導の教員に言われ、自主的に検診を受けに来た。
22	17 歳	男	将来、警察官あるいは数学の教師になりたい。色覚異常で進学・就職に支障があるなら、教師を目指そうと思っている。本人も家族も異常を疑っていたが、はっきり指摘されたことはなかった。
23	17 歳	男	今まで異常を感じたことはなかった。工業高校の電子機械科に通っていて、電気関係の仕事を考えている。学校で検査をしたら異常だった。もっと早くわかっていたら進路を決めるとき違っていたんだろう。
24	17 歳	男	高校 3 年、電気関係の就職先の色覚検査で異常を指摘され当院受診しました。本人は電気工事士一種の免許をもち頑張っています。せっかく頑張ったのに、今後が心配だと母親がショックを受けていました。
25	17 歳	男	母親は全く気付いていなかったが、本人は信号の矢印が見えにくいことを認識していた。今回、就職（鉄道会社）試験で色覚検査があるので受診された。受診後、母親の兄が色覚異常者であるということを知った。
26	17 歳	男	以前から色覚異常があるのではと気になっていたが、就職（来春）を控えて確認のため受診したとのことである（さかのぼっての記述のため、トラブル等、本人の詳細な訴え（受診の詳細な動機）は不明です）。
27	17 歳	男	昔から信号の色が区別できることは自覚していた。小学校教師の母親が色覚検査表を家に持参して検査し異常ということは分かっていた。消防に就職希望。大都市では色覚検査のない所が多いが、念のため受診。
28	17 歳	男	海上の仕事に就きたいが、受験資格に「色覚」があった。これまで人と見え方が違うことはうすうす気付いてはいた。別に困っていることがないが、就職、進学に支障があるとしたらショックが大きいとのこと（本人談）。

29	17歳	男	中学までは不自由を感じなかった。高1の理科で色が分からなくて友達からバカにされることが時々あった。高3になり自動車整備士を目指して受験するための健康診断で内科で色盲と言われた。精査を希望して受診した。	46	18歳	男	数日前色覚検査で異常を指摘された。父親が航空自衛隊で本人も防衛大学への進学を考えている。今回進学のため色覚検査希望で受診。親と同じ職種を希望している。父親から眼鏡で矯正できないか、増悪するのか等質問あり。自衛隊の場合パイロットは不可であろうとお話しした。
30	17歳	男	子どもの頃から箸を並べる時の色合わせ(箸の頭の部分の色)を間違える事があり、気にしていたが小学校の色覚検査後には特に何も言われなかっただので安心していた。今回就職組の検査があつたため気になり一緒に検査してもらったら異常を指摘された。	47	18歳	男	小学4年生で検査をして、近医受診し、異常があることは親子共に知っていた。色覚に異常があるため、母親は理系の大学進学は無理と思って悩んでいた。本人は理系大学への進学を希望している。今回精査して程度と状態が理解できて良かった。長い間悩んでいたことが解決した。
31	18歳	女	就職試験(警察)でひっかかってしまった。	48	18歳	男	本人は消防の仕事を希望し、すでに受験の願書も提出していた。願書提出時に行われた健康診断で初めて色覚異常を指摘される。“色覚異常あり”のままでは受験ができないと言われ、“信号が識別できる”という診断書が必要と言われて急遽眼科を受診された。小学4年生の時に色覚検査を受けた記憶はない。
32	18歳	男	警察官志望だったが、色覚異常とわかり断念した。	49	19歳	男	警察官採用試験で初めて指摘された。
33	18歳	男	工業高校1年生の時、全員に色覚検査を行った。	50	19歳	男	2年前(高3)時に学校で色覚検査した時に気づいた。警察、消防等進路を決めるうえで検査を希望した。
34	18歳	男	自衛隊の就職試験で異常を指摘され、入隊を断念した。	51	19歳	男	小4初診は強度第1色覚異常の診断をしたが高専に進学した。今回高専5年生にて乗船にあたり再検査希望して受診した。航海士ではなく、機関士なので色覚異常者でも問題ないとのことだった。
35	18歳	男	自衛隊志望だったが、色覚異常とわかり志望を断念した。	52	19歳	男	母方の家系に色覚異常があるため、9歳時に色覚検査を希望して受診。このとき第1色覚と診断するも、その後全く受診なく、進路等にも全く考慮していないかった。水産高校を卒業するにあたり、船舶免許を取ることになり、色覚異常が強いと免許が取れないことを知り、慌てて受診。船舶免許の色覚要項が緩和されたため何とかパスしたが、以前のようにパネルD-15で判断されたら、免許が取れないところであった。
36	18歳	男	今回の就職試験(印刷関連)に必要だったこと以外特になし。	53	20歳	女	鉄道会社の採用に関して、信号の色を見分けなければならない。父が赤と黄の違いがわかりにくい…と言っていたことがあるが、加齢のせいだ…と言っていた。
37	18歳	男	親族に色覚異常者がいる。正確に検査したことにはなかった。今回鉄道会社の採用にあたり要精査となり受診となった。	54	20歳	男	今回、警察官採用試験で色覚異常を指摘された。
38	18歳	男	鉄道会社関係に就職したいと思っていたが、今の状態で就職はできるのか、進路は変更しなければならないのかと相談を受けた。	55	20歳	男	機械関係企業への就職に際して診断書を要求されたため。
39	18歳	男	18歳の今まで色覚異常を指摘されたことも自覚したことになかった。就職試験(自動車整備業)ではじめて色覚異常を指摘され驚いて当院受診。	56	20歳	男	小学校の時に検査をした覚えはなく、日常生活でも異常を感じていなかった。入隊時の検査で初めてひっかかったが、2~3回検査をして通った。今回レンジャーに行こうと思ったが、検査でひっかかり色弱では行けないと言われた。
40	18歳	男	工業高校の3年生、コードをつなぐ実習がうまくできなかった。就職を決定するに際して、色覚検査を受けるように進路の先生に言われて受診した。	57	20歳	男	鉄道会社の担当に説明(本人の了解を得たうえで)。本人は乗務が希望のようだったが、微妙な色識別を要する職種で、稀に問題を生じることがあること。運転業務は難しいこと。会社の規則にのっとり、職場を決定してほしいことなど。
41	18歳	男	これまで色覚について困ったことがなかったが、就職に際して色覚検査を行うように言われ検査したところ、異常があるとわかった。本人は職業を選ぶ時にハンデがあるか否かを心配して受診。	58	20歳	男	以前から色覚異常があることは、知っていたよう。本人不自由を感じたことはないと。消防への就職に必要な健康診断で色覚異常と診断されたので、職務には支障がないということを診断書に記入してほしいと来院。パネルD-15がパスだったので、診断書にその旨を記入した。
42	18歳	男	友人との会話で自分は色の見え方が普通とは違うことに本人は気づいていたが、誰にも相談できなかった。信号もわかりにくいで位置で判断していた。今回高校を卒業するにあたり就職時の検査で色覚異常を指摘され受診した。	59	21歳	男	警察官の採用試験を受けたいと近医からの紹介。
43	18歳	男	高3、鉄道会社を就職希望のため色覚検査を希望され受診されました。今まで検査を受けた事はなく、自覚症状もありませんでした。色覚異常がある事を本人、母親に説明しました。就職についてもう一度詳しく調べて検討するとの事です。	60	21歳	男	警察官採用試験の前になって、色覚異常を指摘された。
44	18歳	男	今年警察官になる試験を受けに行き、警察で色覚異常を指摘された。母親談、小学校の時、軽い色弱と言われたことがあったが気にしていなかった。本人談、日常生活で困ったことはなかった。すき焼きの肉の色の変化(焼き具合)はよくわからない。				
45	18歳	男	高3になり、鉄道会社での就職試験の前に学校で色覚検査を受け、はじめて色覚異常を指摘された。ごく軽度の異常であり、試験に影響するかどうかは不明だが、もっと早く知ることができいればそれなりの準備(就職に対する準備)ができていたものと思われる。				

61	21歳	男	警察官の試験を受ける予定。コンタクトレンズ検査の際に色覚検査を希望。
62	21歳	男	消防の受験をしようと思っているが、色覚検査に合格しないようなら進路変更をしなければならないと思っている。弟も色覚異常を指摘されている。
63	21歳	男	就職の時に行った色覚検査が全くできなかった。初めて気付いた。今まで色は苦手だったが、ここまでわからないことは知らなかった。小学校などでは検査を受けた覚えがない。
64	21歳	男	小4で学校健診で色覚異常を指摘され来院し、診断はついていた。今回は警察官の採用試験で診断書必要とのことで来院された。→後日、合格されたと連絡がありました。
65	21歳	男	最近母親側のいとこに色覚異常がいることが分かった。当時大学3年生で、大学でも地方公務員への就職を希望。その内でも色覚検査が重要視されている警察官を第一希望であったため不安となり当院受診する。
66	22歳	男	警察官の試験を受ける。
67	22歳	男	警察官就職試験にて言われた。
68	22歳	男	近医での検査（健康診断）で色覚異常を指摘された。介護施設に就職予定のこと。
69	22歳	男	警察官になるために受験したが、色覚に異常あるため眼科で検査を受けるようにと言われた。
70	22歳	男	航空大学受験希望。本人は自覚症状ないが、受験にあたって母親から祖父が色覚異常であると言われた。
71	22歳	男	以前、パネルD-15はできたが、石原式が異常だった。警察就職時、石原式の検査があるので、本人相談したいと。
72	22歳	男	美容師として就職することになり、ヘアカラーなど分かりにくいことが今まで少しはあるので、確認したいと受診されました。
73	22歳	男	警察官採用時の健康診査でスクリーニングされ、精査依頼にて検査のみ。
74	22歳	男	警察官の2次試験に合格。身体検査で石原式にフェイルしたため来院（証明書提出のため）。資格に色覚正常とあり、不合格の可能性あり。
75	22歳	男	御本人特に「困ったこと」は自覚しておらず、「運転免許も取得できているし、今度就職も決まった。一度きちんと検査しておきたかった」とのこと。
76	22歳	男	小学生時に色覚検査を受け、色覚の特性があることを知っていた。警察官の試験に合格し、採用が決ましたが、採用後に色覚検査等で不安があり、精査を希望して受診した。
77	22歳	男	就職活動中に色覚異常がわかり採用されなかった。今回の受診で強度近視+緑内障も発覚した。自覚的にはこれまで近視による視力不良以外困った事はなかった。小学生時、色覚検査を受けた記憶はあるが、裸眼で検査を受け、視標自体がぼんやりとしか見えなかったので色覚異常とは思っておらず（異常は指摘されたらしいものの）精査指示もなくその後未検だった。
78	23歳	男	警察官の試験にて色覚検査異常といわれ、診断書希望され受診。

79	23歳	男	警察官採用試験のため精査を希望されて受診。日常では支障無かったとの事。
80	23歳	男	警察の就職試験でパネルD-15が再検になり、再検時もいい結果ではなかった為、当院での検査時かなり慎重だった。
81	23歳	男	警察適応試験にて、色覚の一次検査が不適切であった。家族歴もなく、今まで色の識別で不自由を感じたこともなかったと。
82	23歳	男	赤のボールペンの字と黒のボールペンの字が分かりにくい。生活上では不便を感じたことがない。小学校の検査で指摘されたが、眼科で精密検査をしたことがない。今回鉄道会社に就職を希望しているため受診した。
83	23歳	男	小学校4年の頃の学校健診で色覚異常があるといわれていたが、自覚的に困ることはなかった。今回、調理学校入学願書提出にあたり添付する健康診断票に色覚異常の有無の掲載欄があり、記入依頼のため受診した。
84	23歳	男	消防局の試験でパネルD-15で引っかかった。インターネットで研究したら、検査をパスする方法を見つけたので、練習させてほしいと受診。N市では赤・青・黄色の色彩の識別ができれば良いと言われた。
85	23歳	男	昔、学校健診で色覚異常疑いで眼科受診すすめられるも軽く考えていたため、受診せず現在に至る。本人は色の区別が苦手であることは自覚していた。今般、海技士受験手続きに行ったところ、受付の段階で色覚異常を指摘され、申請用紙に精密検査結果を記入してもらうよう言われたとのこと。
86	25歳	男	大学を卒業し、警備会社へ就職が内定した。入社のための健診を受けた所、内科にて学校用石原式色覚表で、異常があるといわれた。今まで、色覚異常を指摘されても異常を自覚したこともない。
87	26歳	男	中学の健診で色弱と言われて知っていた。薬剤師免許申請のため診断書が必要となった。
88	26歳	男	警察官になるために受験したが、色覚に異常あるため眼科で検査を受けるように言われた。以前から色覚異常には気づいていた。
89	26歳	男	小4のとき学校で色覚異常指摘され受診。第2色覚異常微度、パネルD-15バス。26歳就職について色覚の状態を調べてほしいとのことで受診。消防士の試験はどうかとの相談を受ける。一応色覚異常はダメということになっているが、判定の基準がはっきりせず、できれば色覚に関して不問の職種にするよう指導。本人は日常的に色覚で困ったことはないらしい。
90	27歳	男	今回、写真を扱う仕事に従事することを希望し応募したところ、色覚に関する診断の提出を求められ来院された。
91	27歳	男	検査のみ。昨年も同じく採用試験時の健康診査で精査を依頼された。今回再検査、念のため同じ検査を実施している。
92	31歳	男	学生の頃、色覚異常有りと学校の検査で言われたが、眼科は受診しなかった。バス運転手採用試験にて再検査となった。

【仕事】 36

1	18歳	男	仕事でカラーコードを使っていて、茶色を緑と誤ってしまい、指摘を受けた。
2	18歳	男	今まで特に不自由は感じていなかったが、今年就職し、仕事上、赤の配線を見ることがあるので、会社から検査をしてくるように言われ受診した。

3	18歳	男	図工で色鉛筆などの色がわかりにくかった。仕事において、抵抗を色帯で区別するのが困難（他人に聞けるので支障はない）。信号は色の位置（順序）を覚えているので支障ない。
---	-----	---	---

4	18歳	男	入社して職場の配置の為の検査。焼肉の色が見えにくい。仕事の一部で抵抗を色帯で区別するのに困る。これは仕事のうち、極一部で、必要によって他人の助けが得られるので困らざりでできている。
5	18歳	男	仕事において、抵抗を色帯によって区別するのが困難（人に聞けるので、業務に支障はない）。子供の頃から図工など色の区別がしにくかった。焼肉の色が区別つきにくい。信号は順序で覚えている。
6	18歳	男	色覚検査を受けたことはないが、本人は色の見分けが難しいと自覚していた。福祉施設で働いているが、①入所者の顔色が判別しにくい。②タオルの色を間違える（清潔は白色のタオル、不潔はピンク色のタオルと区別しているが、それを間違える。ただし、タオルが新しいうちは何とかわかる）などがあり、上司から眼科で診断書をもらって来いと言われて受診した。
7	19歳	男	ベンキの配色がうまくできない。
8	19歳	男	船の信号灯が識別できず、上司に怒られた。努力で何とかなるといわれた。最近は職場の変更も検討されているとのこと。
9	19歳	男	新入社員研修で業務の中で色覚異常があることがわかった。小学校の頃に健診で指摘されたが「治らない」と言われたそうです。
10	20歳	男	会社で配線の仕事についているため、眼科で検査するようにいわれて受診。
11	22歳	男	鉄道会社に入社して勤務しているが、運転手を希望するも色覚検査にて部署変更できないとのことで受診しています。小学校4年の色覚検査はなかったとのことです。
12	23歳	男	職場では、色の判別が難しい時には同僚に見てもらうが、仕事には差し支えはない。
13	23歳	男	昨日会社で色覚検査受け、色弱と言われた。眼科で検査し、診断書を提出するよう指示された。
14	24歳	男	仕事についてから、色の間違いを指摘されるようになった。配線の仕事をしている。まわりの人が言っている色をだいたい覚えてからは困ることは減った。
15	25歳	男	仕事上で色で見わけにくいことがあるのか、色覚メガネを希望して来院した。
16	25歳	男	都心から農業職につきたく転居。農業の生産製品選別に色覚異常が影響しないか心配と受診。
17	25歳	男	就職において、色覚異常を指摘され、驚いて受診された。こういうケースを見ると支障が出来たと思われる。
18	26歳	男	広告関係の仕事をしていてミスが続いている。尿路結石による血尿をどうして気付かなかつたのかという医師からの指摘があった。
19	27歳	男	小さいときに検査して色弱と言われていたが、その後全く気にしていなかった。色に関わる仕事に就き「色がわからないのか？」と指摘され、治療法がないかを聞きたくて受診した。
20	28歳	男	仕事で色を扱うことが多く、色の判断に困ることがあるとの訴えで受診。

21	28歳	男	仮具の彩色の仕事をしている。暗い所で水色やピンクを茶色に見えることがあり、他の人とどのように違っているのか知りたくて受診した。最近、近くの眼科を受診して検査してもらったが、心配ないと言われた。今の仕事をどの様にしたらいいのか、転職が必要なのか知りたい。小学校4年で検査して異常があることは知っていたが、「気にすることはない」とと言われた。
22	29歳	男	仕事中、色がわかりにくくて困ることがある。
23	29歳	男	仕事でパンフレットの製作をしていたとき、トマトの色がおかしいと指摘された事がある。通常はパソコンを用いているので不便を感じていない。色名についても最初に正しい色名を教えてもらえば次からは時間をかけて色名を言い当てる事ができる。
24	30歳	男	小学校の頃検査で色弱と指摘されるも、日常生活支障なく放置。仕事上、色の判別がつき難く、将来の仕事の方向性を考え、今回受診となった。
25	32歳	男	以前から色覚異常を自覚していた。普段の生活には全く支障がないが塗装業なので微細な色合わせが困難であるとのこと。
26	33歳	男	仕事の時に、カルテにある日付の印の赤と黒の区別がつきにくいため精査希望。
27	33歳	男	小学校での学校健診で色覚異常は指摘されていたが工業高校受験時色覚に関しては何も言われなかった。就職時、電力会社は採用不可となり、現在の会社では色覚に関してはOKといわれ就職したが、その後の健診で色覚の項目があり、心配となり当院受診した。現在の仕事をしていく上で不安を抱えている。
28	34歳	男	仮想の色あせなど判断できない（今まで他の人がしていたがやめたので困っている）。
29	35歳	男	小学校の検査で知った。仕事上の不都合を感じた事はない。どの様に他の人と違うのか、詳しく知りたいと思って受診した。
30	35歳	男	小学校の時の色覚検査で異常は指摘されていた。これまで生活上問題はなかったが、今後アパレル関係の細かい仕事が増えそうで、職場から色覚異常の程度を確認するように言われた。
31	38歳	男	肉の火の入り具合がわかりにくい。刺身の鮮度がわかりにくい。古いものを出してしまった。
32	38歳	男	周りからの指摘で色合いの感じ方が他の人と違うかもしれない気がついた。写真の現像の仕事のため、色覚異常があるのであれば職場にも言わなければならない。赤と黒が紛らわしい。ゴールデンレトリバーが緑っぽい。緑と他の色とが紛らわしい。
33	47歳	男	布の色合いを誤り、トラブルになりかけて困っている。
34	55歳	男	職場（クリーニング屋）で染み抜き作業の時、シミの色が区別できない為、作業を行うことが出来ない。
35	66歳	男	請求書等色（青緑赤がわかりにくい）、兄と三男（本人）、次男はなし。
36	69歳	男	色覚異常のために仕事に悩んでいる。

【その他】 75

*本項目では「身内に先天色覚異常がいる」など主に遺伝的な要因について記載された事例を集めた。

1	4歳	男	母の兄が色覚異常あり。
2	4歳	男	母方の祖父が Color Anomaly。本人も色がわからっていないようだ。
3	5歳	男	母親の父親と母親の姉の子供に色弱がある。

4	6歳	男	母方色弱の方あり。
5	6歳	男	母方に色弱の人がいる。
6	6歳	男	本人の兄2人が同型の色覚異常。
7	6歳	男	本人母方の祖父と、母方祖母の弟が色覚異常。

8	6歳	男	曾祖父が色弱だったので遺伝していないかと母より依頼あり、低年齢のため幼児色覚検査表を行った→2型色覚疑い。今日は、石原色覚検査のみ行ったが上記だった。	34	9歳	男	今まで何もない。ウノ（ゲーム）もできるので色覚異常とは母親は思ってなかった。母方の祖父が色覚異常なので気になっていたとのこと。
9	6歳	男	叔父に色覚異常がいる。3歳児健診で視力異常を指摘、調節性弱視が有り現在も視力で通院中。ライトテストで赤・緑・黄色判別可。また、カラーボールで赤・オレンジ・緑判別可。6歳の時、石原、TMCで2型色覚の疑い有り。	35	9歳	男	母親の父方の祖父（本人から）が色覚異常なので、父方の遺伝と思っていた。下に小2年男（弟）がいるので、近日中に検査するか考えること。
10	7歳	男	患者の母方の祖父が色覚異常者で色弱といわれた為少し心配。	36	9歳	男	兄が色覚異常だった為、弟のこと（本人）も心配になり受診した（母親談）。日常生活で本人困ることはない。学校からも何か言われたことはない。
11	7歳	男	今まで全く気にしていなかった。祖父が図面で緑色を見づらそうとしていたのを記憶している。	37	9歳	男	学校健診で初めて親子共に気付き、自分の母親が色弱であることに気付きました。友人達のことも気になる年齢にさしかかっており、学校からの連絡方法も郵送扱いにする等の配慮もあれば良かったのではと思います。
12	7歳	男	母親の兄に色覚異常があり、気になっていた。時々緑色がわかりにくいことがあったかもしれない（母親談）。	38	9歳	男	お父様は色覚異常（-）、お母様が色覚異常（+）、お母様のご兄弟も色覚異常（+）なので、息子さんも異常があるようだとのこと。初診時は小学校1年生になったばかりで、検査がうまくできなかった為、今回再び検査希望で来院。本人さんも、他の人と言っている色が違うようだと自覚されており、「淡い色同士などは判別するのは、なかなか慣れない」とのこと。トラブルはないようです。お母様自身、色覚異常（+）の為、「後は本人が慣れるしかない」というふうにおっしゃっていました。
13	7歳	男	「全く気付いてなかった」とのこと。軽度自閉症といわれていることもあり、実際に色覚異常のための行動か判断しにくい（本日、眼いためか今一つ集中できていない可能性あり、改めて検査していく予定）。	39	10歳	男	母親の親族に色覚異常の方がいるらしいとのことです。
14	8歳	男	母の父親が色覚異常。	40	10歳	男	母親に色覚異常の家系の認識なし。下に妹と弟がおり、小学4年次の検診を指示した。
15	8歳	男	父親と来院。父親本人も免許等でひっかかっており、子供にも説明する。	41	10歳	男	母親の母方祖父に色覚異常があり、日常生活では気付かなかつたが、今回視力検査の際に色覚検査希望あり判明。
16	8歳	男	母親の父が色覚異常だった。「今後の色使いに気をつけたい」と言っていた。	42	10歳	男	母親：色覚に関して異常と思ったことはなかったが、本人の父の兄と兄の息子が色覚異常のため学校健診を受けさせた。
17	8歳	男	祖父に色覚異常があり、健診の知らせもあり一度確認のため受診した。トラブルはなし。	43	11歳	男	母方の祖父が色弱だった。
18	8歳	男	母親の父が色覚異常。大阪から引っ越して来たばかりだが、大阪では色覚検査を促すような学校からの広報はなかった。	44	11歳	男	本人の母親家系と父親家系の両方に色覚異常がある。（母親は保因者、父親は色覚異常あり）今後の進学について将来相談に乗ってほしいと言われた。
19	8歳	男	患者の母親の家系に色覚異常者がいることを母親は気にしており、今回検査してわかったので、良かったと言っていた。	45	13歳	男	父は学校での健診で、指摘を受けていたので病気を知っていた。本人は異常かどうか本人も保護者も気づいていなかった。色覚検査が行われなくなったことを知って心配になった。男の子は全て異常になると思い込んでいた。母親は自分が保因者であることを知っていた。
20	9歳	女	父：石原はバス。外国人のため、理解度の問題あり。	46	14歳	男	患者の兄が色覚異常。
21	9歳	女	特になし。但し、母親・父親共に色覚異常者有の家系。症例の父、症例の母の兄と母が色覚異常といわれたことあり。	47	14歳	男	母の弟が色覚異常。
22	9歳	男	両親の祖父に色覚異常あり。	48	14歳	男	小学校4年時に色覚異常を指摘されたが、高校受験を来年に控え、再検査を希望して来院。
23	9歳	男	母親の祖父・兄が色覚異常。	49	15歳	男	兄も同傾向。
24	9歳	男	兄も色覚異常指摘されており、心配していた。	50	15歳	男	身内に（母方祖父）色覚異常あるが、気になることはなかったと。学校では検査受けたことがなかったので、眼科で精査受けたいと来院された。
25	9歳	男	母親兄も色覚異常のため、特に気付くことはなかった。	51	17歳	男	弟も同傾向。
26	9歳	男	双子のひとり。双子のもうひとりと同じ様な症状がある。	52	17歳	男	祖父：色覚異常あり。
27	9歳	男	「色の確認表」アゼリア出版、医学書院はほぼ大丈夫でした。	53	17歳	男	親族が皆色覚異常なので男子は全て色覚異常と思っていた。医療の進歩ができないと思いこんでいた。とても稀な「異常」だと思いこんでいた。
28	9歳	男	姉、父親が色覚異常。母親は自分の家系は関係ないと思っていた。				
29	9歳	男	特になく、学校健診で異常といわれ、身内にも異常者がいるため受診。				
30	9歳	男	心因性弱視があった。2年前は色覚異常が検出されず。しかし、兄は色覚異常ある。				
31	9歳	男	母親は自身の父親が色覚異常であることを知っていたが、子への遺伝については考えていないかった。妹がいるので心配している。				
32	9歳	男	母方祖父（本人からみて）に色覚異常がある。本人は二男であり、兄には色覚異常がなかったので、この二男にのみ発症したか…。				
33	9歳	男	母親の父が色覚異常のため気にはしていたが、日常生活に支障がないので大丈夫と思っていた。学校で眼科受診をすすめられたため来院。				

54	18歳	男	小学生の時に色覚検査にて異常を指摘されていた。		67	32歳	女	免許センターや学校健診で人前で検査をされてとても傷ついた。自分の子供(3歳)に色をよくたずねられるとどう返事していいかわからない。
55	18歳	男	小学校低学年で異常を指摘されていたが、その後は検査を行っていません。		68	32歳	男	VDTを見ていて、他の人より疲れやすく、まぶしく感じる。はっきり見えなくてメガネがほしい時がある(裸眼視力は右1.0、左1.0ある)。
56	20歳	男	小学校の色覚検査で異常があることは知っていた。仕事では困ったことはない。遺伝歴は不明。		69	35歳	男	これまで色で困ったことはないが、小学生の頃の色覚検査で異常と言われたことがあり、転職できるか心配で受診。
57	21歳	男	小学生の頃、色覚異常を指摘されたことがある。		70	38歳	男	色覚検査は以前も行ったことがあるが、出来たり出来なかったりしていた。
58	21歳	男	母親が赤緑異常ときいている。小学校の身体検査で色覚異常を指摘されたことがある。		71	43歳	男	赤が暗い。青～黄は普通より鮮やかに見える。明度差、彩度差にたいしてもより敏感だと信じている。
59	21歳	男	幼い頃、何かの検査に引っかかった。両親は正常だと思う…と。おじいちゃんが“赤緑”だ…とのこと。		72	44歳	女	子供の頃、色覚異常と言われたことが有り、今回仕事復帰あたり検査してほしいとのことでした。大熊表で確かに異常が有るのですが、パネルD-15 Passした為、深く追求しませんでした。
60	22歳	男	小学校の検診で初めて知った。母方の祖父が色覚異常。不自由は感じたことはない。		73	51歳	男	小学校の時、異常と指摘された。
61	22歳	男	小学校の時、色覚異常を指摘されていたが、不自由なこともトラブルもなく忘れていた。		74	54歳	男	小学校時代に色覚異常と言われたことがあるので、今回精査確認のため検査希望された。石原表:TMCとも高度の色覚異常であったため、日常生活でのトラブルを尋ねたが、「何の問題も困ることもなくこの年齢まで過ごしてきた」との答えでした。
62	22歳	男	愛知の眼科で色覚精査したら杆体1色色覚と言われた。どういうことなのか聞きたくて母親と共に来院。夜盲もあり、先天的な異常と思われる。		75	76歳	男	本人が子供の頃、色覚異常だったとの話があり、確認の為検査。
63	23歳	男	気にしたことないが、小学校で指摘された。					
64	23歳	男	7色の虹の色が分からない。母方の祖父が色覚異常。					
65	27歳	男	小学校・就職時検査でスルー。産業医の検査で指摘。					
66	30歳	男	ご本人が言うには、パネルD-15は微妙に色の違いがわかるので出来たと?					